

平成30年度 (一社) 相模原市高齢者福祉施設協議会

老人福祉施設 定期調査



目 次

| | |
|-------|---------------------|
| P 1 | 本調査の意図と目的 |
| P 3 | 総 評 |
| P 5 | 特養部会 概要報告 |
| P 9 | 特養部会 調査報告 |
| P 2 1 | デイ部会 概要報告 |
| P 2 5 | デイ部会 調査報告 |
| P 2 9 | 養護・ケア部会 概要報告 |
| P 3 5 | 養護・ケア部会 調査報告 |
| P 4 3 | グループホーム・小多機部会 概要報告 |
| P 4 5 | グループホーム・小多機部会 調査報告 |
| P 5 5 | 居宅部会 概要報告 |
| P 5 9 | 居宅部会 調査報告 |
| P 6 5 | 平成 30 年度 調査研究部会 委員等 |

本調査の意図と目的

1) 本調査の概要

今回の調査では社会福祉法人の事業運営の実態と実情を把握し、相模原市の所管課へ情報共有及び改善への取り組みを主要テーマとしております。

具体的な目的は以下のとおりです。

2) 調査実施の目的

本調査では社会福祉法人の抱えている課題や問題点を抽出し、その実態・実情を把握するための調査となります。

本調査は特別な場合を除いて、定量的データを蓄積するための定点調査（毎年同じ内容で同じ調査期間を実施）を行なうことにより、福祉施設の実態をより細かく分析し把握するための調査となります。

これらの実態把握の結果を参考に、今般、老人福祉施設におけるニーズや実態を相模原市の所管課と情報共有することで政策動向の第一歩として活用していただくための調査となります。

3) 調査対象

（一社）相模原市高齢者福祉施設協議会 会員施設

4) 調査期間

各調査票に記載

5) 回答期限

平成30年10月19日（金）～11月5日（月）まで

6) 回答先

（一社）相模原市高齢者福祉施設協議会へメールにデータ添付にて

調査総評

調査データの数値比較から読み取れる要点のみ以下にまとめた。
詳細は各部会概要報告参照。

1. 特別養護老人ホーム・併設ショートステイ

➤ 入居者の補充と採用状況の悪化が浮き彫りに

入所平均待機日数は「28年度：322日 29年度：238.4日 30年度上半期167日」と3年連続減少。入所までの期間が年々短くなっている。退所者数は「28年度：689人 29年度：764人」を比較すると75人の増加。29年度においては退所者数が入所者数707人を上回る結果となった。このことから退所者数に対し入居の補充が追いつかないため入所待機期間が年々減少しているものと予測される。

29年度採用者数は28年度と比較し常勤93人、非常勤65人の減少となった。殆どの施設が求人を行っているが、結果は例年同様約7割の施設が「求人を下回っていた」「応募があったが不採用」という結果になっている。派遣職員に関しても同様に採用延べ人数は687.3人から343.1人と大幅に減少している。離職者の割合に大きく変化がないことから直接雇用、派遣採用共に人材不足に関しては年々厳しい状況になっていることが伺える。

2. 単独・併設デイサービス

➤ 利用率の減少と利用者の重度化

利用率は28年度と29年度を比較したところ約3%の減少。平均介護度は2.4から2.92と0.52上昇し職員充足率は前年度と比較し0.1減少している。利用率が悪化し介護度が重くなるという結果となった。

3. 養護・ケアハウス

➤ 従来型はPR効果で待機者増も特定型、2人部屋のニーズ減 職員は高齢化

ケアハウス従来型単身の入居希望者は前年度と比べ37人増となり、特に直近入居希望者は46人増となった。タウンニュース広告や各施設でのPRが一定のニーズを掘り起こしたことが想定される。一方で従来型2人部屋は欠員13名の内9名を占め、また特定型については待機者が前年度比2人減となり従来型との差が見られた。

60歳以上の介護職員は前年度より15人増、特に定年後の再雇用者数が1人から9人と大きく増加し、「29年度：採用1人 離職4人 30年度：採用8人 離職7人」と採用離職者数が昨年度より増加した中で、60歳以上の介護職員数や定年の再雇用数が増加した結果から職員の高齢化が伺える。

4. グループホーム・小規模多機能

➤ グループホームの入居は長期化、介護度はやや軽度化

前年度と比較し入居年数は「6年以上」の方が14人増え全体の23%から30%へ増加していることから、入居の長期化が伺える。平均要介護度は3.02から3.0に、また重度化の状況は食事、入浴、排泄全介助など全体的に減少し介護度はやや軽度化した印象である。

5. 居宅介護支援事業

➤ ケアマネージャー数、介護の利用者件数はともに減少の一方で認定調査は増加 事業縮小の傾向か

前年度と比較してケアマネージャー数は110人から92人と18人減となった。介護の利用者件数もひと月あたり300件程度の減少と顕著である。一方で認定調査実施件数は月平均65件ほど増加しており、申請を行っても在宅サービスの利用に繋がっていないことが考えられる。また、全体的にケアマネージャーは減少傾向にも関わらず主任ケアマネージャーを含むケアマネージャーの求人希望数は減少しており19人から4人と15人の減少となっていることから、利用者件数の減少に伴い居宅介護支援事業の事業縮小の傾向も推察される。

特別養護老人ホーム・併設ショート調査結果 概要報告

特養部会

1. 入所待機者の実態把握

(1)入所定員

H30年度は前年度同様、従来型が959床、ユニット型が1,629床、併設型580床で計3,168床であった。

(2)入所待機者数

H29年10月1日の待機者数(特例含む)は2,287人であったが、H30年10月1日では2,312人で、25人増加している。しかし複数の特養に申し込んでいる待機者の事を考えると、介護保険被保険者番号で突き合わせている、高齢政策課のデータとは違い、この数値だけで待機者が増えているとは言えない。

特筆すべきは在宅での待機者数であり、結果は1,042人となっておりこれは全待機者の45%を占める人数となっている。

受け入れ不能な待機者数は、H29年度422人だったのに対しH30年度は358人で64人減少となっている。その内訳も医療依存度56人、認知症による周辺症状34人と上位を占める。

途中から追加された記述式による入所に関する現状の課題についての結果は、「待機者の減少」が6施設、「健康診断書の提出に時間を要する」が5施設、「重度認知症や医療依存度の高さ」が併せて施設も6施設あった。そして加算取得による問題・入院による空床期間が出来る・入退所の回転が速い等関連した課題が挙がっている。

入所待機者の「今すぐ入所したい」はH29年度より149人増の1,440人。うち受け入れ不能者は315人で48人減であり、内訳)医療依存度120人、認知症による周辺症状101人である。特徴的な点で待機者数は微増(1.1%増)なのに対し、「今すぐ入所したい」はH29年度に比べて約11%も増加していること。今後さらに精査が必要ではないかと考えている。

(3)複数施設申込

複数の特養に申し込みしている待機者は、申告者だけで計895人、昨年調査と比べ6人減少している。区別では南区が前年比8%増、逆に中央区は15%減となっている。生活相談員の申込時の声かけなどが定着したことによって年度ごとの大きな上下動がなくなり、数値的には安定したということがあるのではないだろうか。

(4)入所者、退所者の状況

入所についてはH30年度上半期で381人となっており、H29年度上半期(471人)と比較して90人減少している。一方で年間トータルではほぼ横ばい。待機期間はH29年度と比較して最小値30.1日が20.7日とさらに短縮され、申し込み後、より早く入所出来る事がうかがえる。

平均介護度は 3.66 となっており、H27 年度以降、年を追うごとに下がってきている。

退所者の状況については、H29 年度上半期で 393 人、H30 年度上半期 365 人で若干減少。一方で年間トータルでは H28 年度以降増加している。H28(689 人)⇒H29(764 人)。退所理由は看取り以外では、他の特養入所が 4 施設、在宅復帰が 4 施設、療養型施設への転院が 3 施設など、回答の大半が他施設への転院、入所となっていた。

(5)まとめ

年度での入所者数は H28 年度からほぼ増減なしで横ばいの状態だが、退所者数は H28 年度から増加傾向にある。退所に対して入所が追いついていない状態となっている。前述した待期期間の短縮は待機者数の不足に起因しており、待機者が少なければ当然順番も早くなる。待機者の絶対数不足に加えて、退所者の増加が加わることでそれはより顕著になり、申し込めばすぐ入所可能なほどだがそれは入所者数、退所者数、待機者数のアンバランスによるものとも言える。そのアンバランスを示すものとして相模原市全体での待機者におけるベッドの充足率があり、数字にして 25.5%である。これは相模原市内の特養の全ベッド数における 4 分の 1 程度しか待機者を抱えられていないということになり、待機者不足は明らか。こうした状況からその他老健等他施設の空き状況も合わせると、相模原市内の施設がまだ不足している状況なのか甚だ疑問が残る。

2. ショートの実態把握

(1) ショートの利用状況

ショートステイ稼働率は平成 30 年度上半期 83.06%（前年度 76.63%）であったが、一年を通じての変動あるため一概に増えているかどうかは不明。区ごとの H29 年度（H30 年度上半期）平均稼働結果は、緑区 71.7%(69.0%)、中央区 73.5%(90.3%)、南区 80.5%(82.9%) 中央区が下がり、南区が高くなっている。平均介護度は 2.77 である。

近隣の新施設の配置の偏りによる影響の具体例では、ショート利用者の全体数が減っている、利用者確保に影響、緊急ショート医療依存度の高い人のショート増の回答が前年度に引き続いて多くあった。また介護職員の人員確保は同じである。

(2)まとめ

入所施設の増加によって一時的には待機者の解消に繋がったかもしれないが、待機者が減少したことで施設入所までの期間をショートステイ等の利用で繋ぐ必要がなく、ダイレクトに特養入所できる環境がより整備されてきたことで、ショートステイ全体での利用者の全体数が減少している。またそれがショートステイの利用状況に影響を及ぼしているという同様な意見が多くあり、そういったことが入所に繋がられなかった重度利用者の増加に繋がっていくかもしれない。一部ではあるが、影響ない・稼働が増えたという回答もあることから、稼働を上げるための工夫を各施設で考え、地域性も鑑みながらアピールしていく必要がある。

3. 求人や人材育成の状況把握

(1) 求人状況

常勤・非常勤ともに求人は増えているが、その結果は65%が求人を下回っていた。常勤・非常勤ともに求人を下回ったのが24施設、給与水準が異業種/他施設と比較して低いと回答した施設や常勤ではあまり選べない・資質の低下もしくは問題ありの回答した施設もあった。

(2) 派遣職員の採用状況

派遣職員を採用している施設は3施設減少して21施設となり、述べ人数も687.3人から343.1人と大幅に減少。介護職における延べ日数は9925日増の18,761日と激増したが、看護職員の延べ日数は1,338日減の1,125日となった。

派遣職員の課題として、コスト高、職業意識が低い、介護技術の未熟さなどデメリットを抱えつつも、欠員補充が追いつかないなどの理由から採用している施設が多い。

(3) 人材確保・離職防止に向けた取り組み

①資格取得への支援②キャリアアップの明示③給与水準の引き上げ④能力開発・研修費の充実、⑦福利厚生の実施は80%以上の施設で実施されており、⑤労働環境の改善・充実⑥休暇取得の推進は60%以上の施設がしていると回答している。

施設で雇用したい職種と人数では介護職が増加、看護職とケアマネージャーは減少、管理栄養士・調理師以外は若干減となっている。

(4) まとめ

人材育成には研修は重要であり、様々な研修が開催されているが、外部研修の場合にはそのための代替え職員の確保が必要であり、人員不足の状況ではそうした活動による人材育成が困難と悪循環に陥ってしまっている。外部研修だけでなく講師に依頼しての施設内研修を実施するなど方法としてあるが、その場合の費用面の問題解決が不可欠となる。限られた予算でどう解決していくのか、行政と一体的な取り組みが必要である。

4. 施設の医療体制の状況把握

(1) 看護職員の配置

指定基準配置数は合計148.3人であるのに対し、常勤が109人、非常勤が100.1人合わせて209.1人と148%の配置となっている。看護師の資格は正看護師が22人増の164人だった一方、准看護師は13人減の72.6人であった。雇用形態は直接雇用が4.6人増で176.8人、派遣は3.1人減の8.6人。准看護師が減少して正看護師の採用が増加した。

(2) 主治医・夜間緊急時の受け入れの状況

主治医については協力病院からの派遣が19施設、開業医が15施設である。夜間緊急時の受け入れについては、救急車（病院指定なし）が35回答、協力病院の受け入れが24回答、開業医主治医の対応が8回答、協力病院派遣の主治医の対応が8回答であった。

(3)まとめ

施設入所者の重度化に伴い、より一層医療との連携は必要になってきている。看護師の指定基準配置超えは入居者の重度化に伴うものと考えられる。記述の実態課題からは、協力病院があっても、看取りの対応が出来ない、そもそも協力病院での受け入れをしてもらえない。夜間や緊急時の対応も必ずしも受け入れが出来ていると言えない等現場の課題は多い。医療機関との相互理解を深めるべく、市がコーディネーターの役割を担って、介護と医療の連携を深めていく必要がある。

5. 大規模災害の対応についての状況把握

行政に協力して欲しい事には、例年と変わらず人的支援や物資の補給、情報の提供、ライフラインの確保等多くの回答があったが、現実問題として大規模災害時にはこれらが滞るのが課題であると考え、市内特養に対し防災無線の設置や、備蓄品の補助。水道水から井戸水へ切り替えを計画中。炊き出しが出来る防災用ベンチやテント等の回答は、能動的な対応として参考になる。BCP 計画が形だけのマニュアルにならないよう、構築していくべきである。

6. 施設の立替及び大規模改修の状況把握

施設の建て替え期間中に借用可能な代替施設の利用を希望する施設は 28 施設で、希望しない施設は 11 施設であった。建築 11 年以上の施設は 21 施設で、そのうち 21 年以上は 11 施設である。

大規模改修を計画もしくは検討している施設は回答のあった 31 施設中 28 施設で前年度より 7 施設増であった。外壁防水塗装で 21 回答、空調 7 回答、給湯 4 回答、給排水 7 回答となった。改修費用の総額は 11 億 4,450 万円であり、H29 年度調査と同様な額であった。

市に対しては、補助金の援助や代替施設の斡旋等の要望があった。

特別養護老人ホーム・併設ショートステイ 調査票

記述()内回答数

| | | | |
|------|-----------|-----|----|
| 施設種別 | 特別養護老人ホーム | 施設数 | 40 |
| 施設内訳 | | | |

特に指定のない場合は平成30年10月1日現在の状況についてご記入ください

1. 施設種別・所在地等

(1) 貴施設の種別を左ブルー枠より選択し、右黄色枠に定員をご記入願います。

| | | | | |
|------|------|--------|------|-------|
| | 1従来型 | 2ユニット型 | 3併設型 | 合計 |
| 施設数 | 17施設 | 18施設 | 5施設 | 40施設 |
| ベッド数 | 959床 | 1629床 | 580床 | 3168床 |

* 3併設型を選択した場合の各定員。

2. 入所待機者の状況について

(1) 10月1日現在の貴施設の入所待機者数を市内と市外住民別にご記入ください。

特例入居対象者

| | | | |
|----|------|-----|------|
| | 市内 | 市外 | 合計 |
| 1 | 3 | 1 | 4 |
| 2 | 7 | 3 | 10 |
| 3 | 850 | 98 | 948 |
| 4 | 790 | 79 | 869 |
| 5 | 424 | 57 | 481 |
| 合計 | 2074 | 238 | 2312 |

平成30年3月31日までに申し込みのあった介護度1及び2の申込者を記入してください。

(記録等がない場合は「0」と記)

| | | | |
|-----|-----|----|-----|
| 要介護 | 市内 | 市外 | 合計 |
| 1 | 68 | 7 | 75 |
| 2 | 144 | 15 | 159 |
| 合計 | 212 | 22 | 234 |

(2) 要介護3～5の在宅の方の待機者数をご記入ください。

| | |
|-----|------|
| 要介護 | 在宅人数 |
| 3 | 461 |
| 4 | 371 |
| 5 | 210 |
| 合計 | 1042 |

(3) 待機者の中で受け入れ不能な待機者数とその主な理由に○を選択してください。(複数選択可)

| | | | | |
|-------------|---------------------------------------|-------|------|------|
| 要介護度 | 要介護3 | 要介護4 | 要介護5 | 計 |
| 受け入れ不能な待機者数 | 109施設 | 152施設 | 97施設 | 358名 |
| 医療依存度 | 15施設 | 22施設 | 19施設 | 56 |
| 認知症による周辺症状 | 13施設 | 10施設 | 11施設 | 34 |
| 市外在住 | 10施設 | 9施設 | 8施設 | 27 |
| その他 | 4施設 | 6施設 | 2施設 | 12 |
| その他内容 | 経済的理由 夫婦同時入所希望 本人拒否 医療行為を要する | | | |

* 理由にその他を選んだ方は、右枠にその内容

(4) 入所に関する現状の課題をご記入ください。

(例：ベッドが空いても、すぐ入所出来る人がいな為、入所者まで空床期間が出来る等)

* 複数回答可

| |
|--|
| 待機者の減少 (6施設) 健康診断書提出に時間を要する (5施設) 重度認知症により対応困難 (3施設) 医療依存度が高く対応困難 (3施設) 退所件数の増加に新規受け入れが追いつかない (2施設) 即時入所希望なし (2施設) 他施設との競争激化 (2施設) 行動面のリスク (転倒/骨折など)が高い (2施設) 入所申込以降の話が進まない (面談日程調整困難・身体状況等の相違) 受入に際し人数制限がある 男性ベッド (従来型多床室) が少なく待機が長期化 |
|--|

3. 入所待機者の入所希望時期について

(1) 10月1日現在の入所希望時期について

「今すぐ入所したい」人数をご記入ください。

| | |
|------|-------|
| 要介護3 | 550名 |
| 要介護4 | 540名 |
| 要介護5 | 350名 |
| 合計 | 1440名 |

(2) 上記のうちで受け入れ不能な主な理由の人数を記入してください。
(複数選択可)

| 要介護度 | 要介護3 | 要介護4 | 要介護5 | 計 |
|--------------|---|------|------|------|
| 1 医療依存度 | 29名 | 57名 | 34名 | 120名 |
| 2 認知症による周辺症状 | 43名 | 38名 | 20名 | 101名 |
| 3 市外在住 | 16名 | 14名 | 11名 | 41名 |
| 4 その他 | 30名 | 16名 | 7名 | 53名 |
| 計 | 118名 | 125名 | 72名 | 315名 |
| 理由 | 経済的理由 夫婦同時入所希望 本人拒否 家族のフォローが得られない 後見人が定まらない | | | |

* 4 その他の該当者有る場合、理由欄に内容をご記入ください。セルは折り返し表示設定になっています。

4. 10月1日現在の入所待機者の中で複数施設申し込み者数を申込み施設ごとにご記入ください。(把握できる範囲でご記入ください。)

| 区(定員) | 地区(定員) | 施設名(定員) | 申込者数 | 区(定員) | 地区(定員) | 施設名(定員) | 申込者数 |
|---|------------|---|---------------|--|----------------------|--------------------|------|
| 緑区 10 (766) 従来5 ユニット3 併設2 | 橋本(54) | 東橋本ひまわりホーム(54) 従来 | 24 | 南区 18 (1668) 従来6 ユニット10 併設2 | 大沼(174) | グレープの里(54) 従来 | 18 |
| | 相原(50) | ポーナピール二本松(50) 従来 | 35 | | 相模原すみれ園(120) 併設 | 39 | |
| | 大沢(224) | 中の郷(94) 併設 ケアプラザさがみはら(130) ユニット | 66 | | 大野台(350) | シルバータウン相模原(170) 併設 | 35 |
| | | | 20 | | こもれび(60) ユニット | 24 | |
| | 城山(58) | ライフホーム城山(58) 従来 | 29 | | 大野台幸園(120) ユニット | 49 | |
| | 津久井(170) | 青根苑 1号館・2号館(120) 併設 旭ヶ丘(50) 従来 | 10 | | 大野中(83) | モモ(54) 従来 | 36 |
| | | | 1 | | コミュニティホームピノ(29) ユニット | 9 | |
| | 相模湖(160) | さがみ湖桂寿苑(50) ユニット 相模湖みどりの丘(110) ユニット | 4 | | 大野南(54) | 幸園(54) 従来 | 23 |
| 3 | | | 麻溝(507) | | あさみぞホーム(52) 従来 | 27 | |
| 藤野(50) | 銀の館(50) 従来 | 3 | 相陽台ホーム(85) 従来 | | 22 | | |
| 中央区 10 (748) 従来6 ユニット3 併設1 | 大野北第1 | | 0 | | よもぎの里 愛の丘(100) ユニット | 6 | |
| | 大野北第2(130) | 大野北誠心園(130) ユニット | 18 | | ラベ相模原(130) ユニット | 11 | |
| | 田名(270) | リバーサイド 田名ホーム(50) 従来 塩田ホーム(100) 併設 柴胡苑(30) 従来 縁JOY(90) ユニット | 16 | | 新磯(260) | 相模原敬寿園(160) ユニット | 25 |
| | | | 33 | | はなさか(100) ユニット | 10 | |
| | | | 6 | | 相模台第1 | | |
| | | | 10 | | 相模台第2(110) | りんどう麻溝(110) ユニット | 15 |
| | 上溝(54) | コスモスホーム(54) 従来 | 35 | | 東林第1(130) | 東林間シニアクラブ(50) 従来 | 25 |
| | 小山 | | 0 | | 清菊園(80) ユニット | 20 | |
| | 清新(54) | はあとびあ(54) 従来 | 43 | 東林第2/相武台 | | | |
| | 横山(170) | みたけ(50) 従来 マナーハウス横山台(120) ユニット | 23 | | | | |
| | | | 49 | | | | |
| 中央(70) | 泰政園(70) 従来 | 32 | | | | | |
| 星が丘/光が丘 | | | | | | | |
| | | | | 計3182 | | | |

5. 年度ごとの入所者、退所者の状況をご記入ください。*小数点第2位を四捨五入

| 年度 | 新規入所者 延べ人数 | 新規入所 者平均 | 平均待機 日数 | 中央値 | 最大値/最小値 | 平均 介護度 |
|-----------|---------------|-------------|------------|---------|------------|-----------|
| 平成29年度 | 707人 | 17.7人 | 238.4日 | 164.25日 | 810.4/30.1 | 3.66 |
| 平成30年度上半期 | 381人 | 9.53人 | 167日 | 125.25日 | 578/20.7 | 3.66 |

| 年度 | 退所者 数 | 退所理由 | | |
|-----------|----------|------|------|------|
| | | 長期入院 | 看取り | その他 |
| 平成29年度 | 764人 | 288人 | 286人 | 188人 |
| 平成30年度上半期 | 365人 | 145人 | 134人 | 88人 |

| | |
|------------|--|
| その他の 内容 | 他特養入所（4施設） 在宅復帰（4施設） 入院に伴う死亡（3施設） 療養型施設への転院（3施設） 急死（含：救急搬送先）に伴う緊急退所（2施設） 老健入所 ケアハウス入所 有料老人ホーム入所 入院の長期化 |
|------------|--|

6. 併設ショートのある施設は、定員と年度ごとの利用者数、平均介護度をご記入ください。

緑区9施設+空床利用1施設、中央区11施設、南区15施設 計35施設+空床利用1施設

| | |
|--------|------|
| ショート定員 | 506人 |
|--------|------|

※延べ利用者数＝期間内利用者数の合計

※利用率＝延べ利用者÷（利用定員×サービス提供日数）×100

※のべ利用者数には特養の空床利用者も含む。

要支援のカウント（ ）内参照。

要支援1（0.375）、要支援2（1）

| 年度 | 延べ人数 | 平均 利用率 | 中央値 | 最大値/最小 値 | 平均 介護度 |
|---------------|---------|-----------|-------|-------------|-----------|
| 平成29年度 | 141533人 | 76.63% | 75.3% | 128.3/0 | 2.69 |
| 平成30年度 上半期 | 76909人 | 83.06% | 80.5% | 187.6/0 | 2.77 |

7. ショートステイにおける課題があれば、具体的に例をあげてください。

| |
|--|
| 入退所に伴う煩雑な業務（2施設） 稼働率の維持・向上（2施設） 稼働率の低下（2施設）※高齢者施設の乱立による影響（うち1施設） 職員配置（2施設）※人員不足・ユニット型による配置過多傾向（各1施設） 対応困難（2施設）※医療依存度・緊急依頼（各1施設） 在宅復帰困難者の利用長期化 ベット予約管理※直近でのキャンセル 未収金回収※利用終了者の支払い者と連絡不通 |
|--|

8. 人材確保に関する、介護職員採用状況についてお尋ねします。

(1) 介護職員の採用・離職状況についてご記入願います（H28.4.1～H29.3.31の間）

| | 常勤 | 非常勤 | 常勤平均 | 非常勤平均 |
|-------------------|------|------|--------|-------|
| 採用者数 | 211名 | 198名 | 5.275名 | 4.95名 |
| （採用者のうち介護系新卒者） | 27名 | | 0.675名 | |
| （採用者のうち介護系以外の新卒者） | 12名 | | 0.3名 | |
| 離職者数 | 175名 | 150名 | 4.375名 | 3.75名 |

(2) 60歳以上の介護職員の人数をご記入ください。

| | 常勤 | 非常勤 | 常勤平均 | 非常勤平均 |
|------------------|-----|------|-------|--------|
| 60歳以上 | 42名 | 165名 | 1.05名 | 4.125名 |
| （上記のうち、定年後の再雇用者） | 20名 | 21名 | 0.5名 | 0.525名 |

(3) 在住外国籍および日本国籍の外国人の雇用についてお尋ねします。

| | 常勤 | 非常勤 | 常勤平均 | 非常勤平均 |
|-----------|-----|-----|--------|-------|
| 在住外国籍の外国人 | 12名 | 8名 | 0.3名 | 0.2名 |
| 日本国籍の外国人 | 7名 | 4名 | 0.175名 | 0.1名 |
| 計 | 19名 | 12名 | 0.475名 | 0.3名 |

上記外国人雇用施設の方にお尋ねします。

| | |
|-------|---|
| 良かった点 | <p>勤勉で礼儀正しい。 日本人職員への良い意味での刺激・啓発へと繋がった。 各現場において戦力となっている。 ご利用者様からは好意にしている。 大家族環境で育っているためか、高齢者とのコミュニケーション能力、気づきに優れている。 高齢者に接するコミュニケーションを始めとし、心構えと表情に温かさが伺われる。 レクリエーションなど積極的。</p> |
| 課題 | <p>言語的コミュニケーションに不自由（5施設） 記録業務が困難（4施設） 文化の違い 人員不足により、日本人職員が頼り過ぎてしまう一面もあり。</p> |

9. 職員の求人状況についてお尋ねします。

(1) 職員の求人状況について該当するものに○をつけてください。（今年の4月から9月の間）

注) 常勤…雇用形態ではなく、法人によって定められた常勤の従事者が勤務すべき時間数に達している職員としてご回答ください。

| | | | | |
|-----------|----|----|-------|---|
| ①常勤職員の求人 | 実施 | 37 | 実施しない | 2 |
| ②非常勤職員の求人 | 実施 | 36 | 実施しない | 3 |

(2) 職員の求人を実施した施設にお伺いいたします。

求人の結果を選択してください。

| | | | | |
|-----------------|----|----|-----|----|
| 1、求人を上回っていた | 常勤 | 0 | 非常勤 | 0 |
| 2、ほぼ求人通りの応募があった | 常勤 | 8 | 非常勤 | 11 |
| 3、求人を下回っていた | 常勤 | 24 | 非常勤 | 23 |
| 4、応募はあったが不採用 | 常勤 | 2 | 非常勤 | 1 |
| 5、その他 | 常勤 | 3 | 非常勤 | 1 |

| | |
|-----|---|
| 常勤 | <p>2、ほぼ求人通りの応募があった理由 ・専門学校からの応募による。</p> <p>3、求人を下回っていた理由 ・応募が少ない又は皆無（6件） ・給与水準が異業種/他施設と比べ低い（2件） ・新卒者の採用が困難だった ・時間帯等、条件に一致する応募はなかった ・面接を行うが、通勤路に難があり辞退される方が多い。 ・求人媒体の不足が考えられる ・派遣会社や紹介会社からの依頼は多いが賃金が高いため採用には至らず。</p> <p>4、応募はあったが不採用理由 ・職員として不適合</p> <p>5、その他理由 ・面接予定だったがキャンセルされた（2件） ・面接後、採用予定だったがキャンセルされた ・変則勤務に対応できる人材が減少</p> |
| 非常勤 | <p>2、ほぼ求人通りの応募があった理由 ・託児の利用を希望される方が多く、施設内託児室がある点が応募につながったと感じている。 ・職員の紹介により3名ほど採用できた。 ・ハローワークより応募があった。</p> <p>3、求人を下回っていた理由 ・応募が少ない又は皆無（7件） ・給与水準が異業種/他施設と比べ低い ・時間帯等、条件に一致する応募はなかった ・求人媒体の不足が考えられる</p> |

(3) 派遣職員の採用状況について、お伺いいたします。

(今年の4月から9月の間)

1.採用している場合(4)へ。

2.採用していない場合(5)へ。

| 理由 | 派遣職員を採用している | 21 | 採用していない | 18 |
|---------|--|----|---------|----|
| 採用している | 欠員補充が追いつかない(6件) 直接雇用への応募がない(3件) 既存直接雇用職員の負担軽減(2件) | | | |
| 採用していない | デメリットの方が大きい(4件)※職業意識や介護技術など未熟 職員数が充足している(3件) コストが高い 雇用継続が不安定 直接雇用して人材育成に力を入れていきたい。 | | | |

(4) 採用した派遣職員の数と内訳を記入願います。

* 3 その他には職種を記入してください。

| | | |
|-----------|--------|------|
| 延人数(常勤換算) | 343.1人 | |
| 実人数(常勤換算) | 127.7人 | |
| 職種 | 延べ日数 | 施設数 |
| 1 介護職員 | 18761日 | 21施設 |
| 2 看護職員 | 1125日 | 21施設 |
| 3 その他 | | |

(5) 派遣職員を採用することについての課題がありましたら具体的にご記入ください。

(記入例:派遣職員を採用することにより人件費は増加するが、長期間の継続勤務はできないためサービスの質の向上につながりにくい。)

| |
|--|
| 継続雇用が不安定(6件) 人件費の高騰(5件) 介護技術の未熟さ(3件) 就労条件が多い(2件) 労務管理上の介入が困難(派遣会社経由)になる 職業意識が低い(2件)※無断欠勤・低い自発性 責任のある業務は任せにくい。 サービスの質の向上の困難性 直接雇用職員の不満を誘発する※賃金面など |
|--|

(6) 人材確保・離職防止に向けた取り組みについて、選択し、その具体的内容をご記入ください。

① 資格取得への支援

| ①していない | ②している | ③したい |
|--------|-------|------|
| 0 | 37 | 0 |

取得費用の助成(10件)
職場内で公的な研修会を開講(2件)
取得し易い環境整備(2件)※出勤扱いでの研修/講習参加など
研修/講習会等の情報提供
勉強会の開催
資格手当の支給

② キャリアアップの明示

| ①していない | ②している | ③したい |
|--------|-------|------|
| 1 | 31 | 3 |

等級概念図等を作成し、明示している。
キャリア、資格、勤務状況により処遇改善加算の支給額を変えている。
職層別に求められる項目を設定し、目標達成シートを基に組みの振り返りを実施している。
事業所間での配置転換等を行い、有資格者に対してキャリアアップを進めている

③ 給与水準の引き上げ

| ①していない | ②している | ③したい |
|--------|-------|------|
| 1 | 33 | 3 |

4月に人事考課のもとに実施
給与規程の改変を行い、住宅手当、扶養手当等の適用範囲を拡大した
処遇改善加算を利用して、就労年数に応じた引き上げを行っている。
介護職員手当や夜勤手当の増額
資格取得につき給与階級の昇格

④ 能力開発・研修費の充実

| | | |
|--------|-------|------|
| ①していない | ②している | ③したい |
| 0 | 31 | 3 |

外部研修についての費用負担（4件）
 内部研修を定期実施（2件）
 目標管理によるOJT
 介護以外の研修受講も推奨

⑤ 労働環境の改善・充実

| | | |
|--------|-------|------|
| ①していない | ②している | ③したい |
| 3 | 25 | 9 |

衛生管理委員会などを開催し、労働環境の改善及び充実を行っている。（2件）
 介護ロボットの導入を検討中
 有給消化を目標に人員確保
 更衣室や休憩室の拡大

⑥ 休暇取得の推進

| | | |
|--------|-------|------|
| ①していない | ②している | ③したい |
| 2 | 29 | 3 |

希望休（公休）の運用（2件）
 有給休暇取得の推進（2件）
 リフレッシュ休暇取得の推進（2件）
 連休取得の推進

⑦ 福利厚生 of 充実

| | | |
|--------|-------|------|
| ①していない | ②している | ③したい |
| 1 | 29 | 5 |

職員交流の場（忘年会・新年会・食事会など）の開催・費用補助（4件）
 退職金制度加入。
 予防接種費用の施設負担。
 健康診断に大腸がん検診やバリウムなどの項目を法人負担で追加。
 職員駐車場の無料化。
 保養所の利用。

(7) 施設で雇用したい職種とその人数（常勤換算）
 についてご記入ください。

| 職種 | 常勤 | 非常勤 |
|-------------|------|-----|
| 1.介護福祉士・介護士 | 116人 | 86人 |
| 2.正看護師・准看護師 | 22人 | 12人 |
| 3.理学・作業療法士 | 8人 | 2人 |
| 4.ケアマネージャー | 3人 | 0人 |
| 5.生活相談員 | 3人 | 0人 |
| 6.管理栄養士 | 0人 | 0人 |
| 7.歯科衛生士 | 0人 | 0人 |
| 8.事務 | 4人 | 5人 |
| 9.調理師 | 6人 | 9人 |

(8) 上記の職員を雇用することにより期待できると考えるサービスの質の内容についてご記入ください。
 （記入例：看護師を1名増員することにより看取り介護の導入が可能となる。）

労働環境の改善※業務内容の充実・休暇取得など（9件）
 個別ケアの充実※ADL重度・認知症・医療行為など（7件）
 加算の取得※看護・日常生活・夜勤・機能訓練など（5件）
 通常業務以外の時間確保※外出行事・研修参加など（3件）
 退職（転職）を見越した人員確保（2件）
 三大介護以外の取り組みが向上
 サービスの質の均等化※職員が少ない時間帯を減少
 変化してきている働き方（時間帯・出勤曜日など）への対応
 事務処理事業の維持・向上（管理級職員の専任性向上）
 派遣職員の減少
 職員力量差を数で補う

(9) 貴施設における人材育成の課題と解決策および市への要望についてございましたら具体的に記入ください。

| 記入例 | | 課題・解決策・市への要望 |
|--------------|--|--|
| 課題 | 喀痰吸引研修受講の費用と時間の確保が困難のため夜間吸引の必要な胃瘻の入所者の受け入れの課題となっている。 | 研修受講時の代替職員確保（6件） 研修費用の捻出（3件） 資格未取得による受入の弊害※喀痰吸引など（3件） 中堅職員の伸び悩み（2件） 人材確保自体が困難（2件） 福祉に関わるすべての職種の賃金向上 全体的な介護職員の教育 |
| 解決策 | 夜勤を行う介護職員の喀痰吸引研修費用の負担軽減を行い解決する。 | 自施設内で研修を企画・実施（7件） 職員数の確保により研修参加体制を向上（2件） 介護報酬の抜本的な底上げ提言（2件） 相模原市委託事業の喀痰吸引等研修の年間回数増加と費用補助継続。（2件） 研修費用の負担軽減 代替職員人件費の負担軽減 高校生等が職場体験する機会を増やしていきたい |
| 市への要望 | 相模原市による研修受講費用の助成を継続する。 | 研修受講費用の助成を継続（4件） 喀痰吸引研修の継続・増回（3件） 人材確保への協力体制確立（3件） 地域区分の格上げを県、国に訴えて頂きたい。（2件） 研修時間を夜間にする等、参加しやすい環境整備。 研修受講時の代替職員人件費の助成（2件） 中堅介護職員向け研修の企画 加算や助成等の手続きを出来る限り、簡素化して頂きたい。 |

10. 施設の医療体制の実態と課題についてお尋ねします。

(1) 看護職員の配置数（短期入所含む）

（機能訓練指導員を除く）

*非常勤は常勤換算での人数

| 指定基準配置数 | | 合計 | 平均 |
|---------|-----|--------|---------|
| | | 148.3人 | 3.7075人 |
| 実際の配置数 | 常勤 | 109人 | 2.725人 |
| | 非常勤 | 100.1人 | 2.5025人 |

(2) 看護職員の資格についてご記入ください。

| | | |
|------|-------|--------|
| 正看護師 | 164人 | 4.1人 |
| 準看護師 | 72.6人 | 1.815人 |

(3) 看護職員の雇用形態についてご記入ください。

| | | |
|------------|--------|--------|
| 直接雇用（常勤換算） | 176.8人 | 4.42人 |
| 派遣採用（常勤換算） | 8.6人 | 0.215人 |

(4) 看護師を派遣採用している場合、その理由についてご記入ください。

| |
|--|
| 直接雇用人材の不足（5件） 募集への応募がない（2件） 仕事ができる |
|--|

(5) 主治医について選択してください。

| | | |
|---------------------------------|-------------|-------|
| 1 開業医 | 2 協力病院からの派遣 | 3 その他 |
| 15施設 | 19施設 | 5施設 |
| 嘱託医 配置医 各利用者毎に主治医（単独ショート） | | |

* 3 その他を選択した場合には、対応をご記入ください。

(6) 夜間緊急時の医療の連携について○をつけてください。*複数回答可

| | |
|-----------------|------|
| 1 協力病院の受け入れ | 24施設 |
| 2 協力病院派遣の主治医が対応 | 8施設 |
| 3 開業医主治医が対応 | 8施設 |
| 4 救急車対応（病院指定無） | 35施設 |
| 5 その他 | 3施設 |

*その他に○をつけた場合、内容をご記入ください。

嘱託の医師が対応する。
配置医が夜間緊急時に来てくれる。

(7) 協力病院・協力医・配置医等の医療体制の実態と課題について、解決策および市への要望がございましたら具体的にご記入ください。

| | |
|--------|---|
| 実態/ 課題 | 協力病院での受け入れをしてもらえない※夜間・救急時などはより困難（5件） 嘱託医・配置医との連携/協力により、職員の安心感も得られている。（4件） 「ベットに空きが無い」と言われることが多い（2件） 看取り介護の永眠時に協力医師が来苑されるが、遠方のため高額な交通費用が発生してしまう。交通費については家族負担となってしまう。 介護士の昇任に伴い、医療的ニーズが高くなり入所者の増加や、体調不良の発生頻度が上昇。その対応業務に追われ、人員不足の現状に更に拍車をかける状況である。 |
| 解決策 | 相模原市内の病院の受け入れ態勢の充実が必要 協力病院側の経営に関する事なので、解決はできないと思う。 かかりつけ医でない救急搬送は、情報伝達がより重要。その職員教育も必要。 ご家族や身元保証人には理解を得ているが、負担軽減のための対策を考慮中。 今後も医師、医療機関不足の進展が予測されるため、看護師及び介護士の高齢者に対する医療知識・技術を高め、入所者の体調変化を早期に発見・対処して、重症化を未然に防止する。 |
| 市への要望 | 相模原市内の病院の受け入れ態勢の充実をお願いしていただきたい。 協力病院としての役割について再考をお願いしたい。 病院、介護施設の意見交換会等の場がもっと開いたものにして開催して頂きたい。 救急隊と福祉施設職員と対話の場を設けてほしい。 介護士の医療知識や技術向上並びに看護師に対する介護士への指導技術の向上を目的とした研修の企画及び実施。個々の人材を計画的に育成する為、技能評価と達成度の見極めを反映した、体系的な育成計画の作成を目的とした研修。 |

11. 防災についてお尋ねします。

(1) 大規模災害発生時に、行政に協力して欲しいこと・協力できることをご記入ください。

●協力して欲しいこと
物資（非常食・衛生用品・燃料など）の確保。（8件）
情報把握/提供（5件）
指揮機能の早期確立（4件）
復旧作業の迅速化（2件）
急変者の受け入れ先と搬送手段の確保。
要援護者の移送を行うときに施設の車両を緊急車両として認定していただきたい。
相模川の氾濫時には交通手段が立たれて孤立してしまう可能性がある。
倒壊等で破損した物を撤去する場合建設機械を持っている建設業者への協力要請。
人員の提供
発生時ではなく、発生前からシュミレーションしないと分からない。
●協力できること
福祉避難所として協力していく。（5件）
職員の参集が不足している場合は自施設の対応だけとなることもある。
発生時ではなく、発生前からシュミレーションしないと分からない。
施設側からの行政への協力は難しい。

(2) 大規模災害発生時に、施設間で協力して欲しいこと・協力できることをご記入ください。

物資や機材の提供（8件）
職員の派遣（6件）
利用者の受け入れ（6件）
情報共有（3件）
移送手段の提供（2件）
備蓄品保管場所の提供
津久井地域において支援体制を構築した（平成21年に覚書を締結）
①旭ヶ丘②ライフホーム城山③銀の館④さがみ湖桂寿苑

(3) 大規模災害発生時に、地域へ協力できること・地域でして欲しいことをご記入ください。

●協力できること
高齢者などの受け入れ（11件）
高齢者などへの対応※介護・看護面など（3件）
井水があるので、管が破裂せず水が枯れなければ、水の提供はできると思う
冷凍コンテナで備蓄があるので食事（炊き出し）などの提供はできるかもしれない
交通出来るようであれば、緊急車両として認定頂きリフト車を活用し、移動困難な方の避難所までの移送を行う。
近隣避難所への応援
●して欲しいこと
人員（ボランティアなど）としての協力（7件）
健常者・若年者は、できるだけ避難所へ誘導。
地域の高齢者の安否確認についての相互協力
災害時に地域に頼ることは極めて難しいと考えられる。

(4) 大規模災害発生時に課題だと感じていることをなんでもご記入ください。

職員の緊急招集（12件）
長期化時の対応（3件）※備蓄・気候・ライフライン
職員への連絡（2件）
対策費用の捻出（2件）※備蓄量が少ない・準備/維持コストが高い
福祉避難所運営（2件）※開設時期・対象外住民への対応
サービス提供中止時の家族協力
立地条件に伴う対応困難さ
市内施設全域で物品の共通化を行えば、貸し借りがスムーズに行えるのでは？

12. 介護福祉施設の耐用年数は40～50年といわれています。東京都では、平成27年度から福祉施設の建て替え期間中に借用できる代替施設を整備する計画があります。相模原市における施設建て替え期間中に借用可能な代替施設の整備についてお尋ねします。

(1) 貴施設の建築年数は

| | | | |
|-------|----------|----------|----------|
| 10年以内 | 11～20年以内 | 21～30年以内 | 31～40年以内 |
| 10施設 | 10施設 | 6施設 | 5施設 |
| 1希望する | 28施設 | 2希望しない | 11施設 |

(2) 施設建て替え期間中に借用可能な施設があれば利用しますか？

| | |
|---------|--|
| 希望する理由 | サービス提供継続のため（6件） 自己調達が困難なため（3件） コストカットのため ●「借用」ではなく「移転」と認識している回答（3件） |
| 希望しない理由 | 建て替え時期までに時間がある（2件） 必要性がない リフォーム直後である 環境が変わることで利用者の身体に負担が大きいため。 10数年後の特養建て替えのニーズがあるか不明瞭。要検討であるため。 |

(3) 施設の建て替えに関する課題および解決策、市への要望がございましたら具体的にご記入ください。

| | |
|--------|--|
| 実態/ 課題 | 費用捻出（6件） サービス提供継続への不安・弊害（2件） 代替用地・施設（2件） 将来の人口減少の予測下で、施設の需要と供給バランスを見据え、整備費と耐用年数を勘案して、収支バランスが取れるか否かが不透明で、経営判断が難しい。 |
| 解決策 | 財源確保（5件） 代替用地・施設の確保（3件） 施設運営方針の再検討（2件） |
| 市への要望 | 資金の補助（4件） 代替施設の斡旋（3件） 施設設備計画の見直し（3件） 建て替えに向けての内部留保基準の明示（国基準ではなく相模原市の基準を） |

1 3. 大規模改修についてお尋ねします。

(1) 計画もしくは検討していますか？

| | | | |
|----------|-------|-----------|-------|
| 1 検討している | 17 施設 | 2 検討していない | 22 施設 |
|----------|-------|-----------|-------|

(2) 計画もしくは検討している場合、大規模改修に該当するものに○を選択してください。

* 複数選択可。

| | | | |
|----------------------|-------|-------|------|
| 1 防水 | 10 施設 | 4 給排水 | 7 施設 |
| 2 外壁 | 11 施設 | 5 給湯 | 4 施設 |
| 3 空調 | 7 施設 | 6 その他 | 7 施設 |
| 自動火災報知設備 エレベーター設備 | | | |

6 その他を選択した場合内容を記入ください。

(3) 改修内容ごとにかかる費用の予想額を ご記入ください。*数値のみ入力¥は自動で出ます。

| 改修内容 | 予算 |
|------------------|--------------|
| 防水 | ¥13,000,000 |
| 防水 | ¥20,000,000 |
| 防水 | ¥30,000,000 |
| 防水工事 | ¥6,000,000 |
| 屋上防水 | ¥20,000,000 |
| 外壁防水 | ¥20,000,000 |
| 防水トップコート | ¥5,000,000 |
| 外壁 | 5千万～1億 |
| 外壁 | ¥70,000,000 |
| 外壁 | ¥30,000,000 |
| 外壁 | ¥30,000,000 |
| 外壁 | ¥15,000,000 |
| 外壁工事 | ¥10,000,000 |
| 外壁塗装工事 | ¥9,500,000 |
| 外壁検査・補修 | ¥30,000,000 |
| 空調 | 5千万～1億 |
| 空調 | ¥100,000,000 |
| 空調 | ¥30,000,000 |
| 空調 | ¥30,000,000 |
| 給排水 | ¥10,000,000 |
| 給排水管の新調 | ¥20,000,000 |
| 給排水工事 | ¥15,000,000 |
| 給排水 | ¥2,000,000 |
| 給排水設備 | ¥30,000,000 |
| 給湯 | ¥25,000,000 |
| 給湯管・給水管更新工事 | ¥7,000,000 |
| 給湯配管補修・入替 | 未定 |
| ボイラー給湯設備2基 | ¥14,000,000 |
| その他 | ¥10,000,000 |
| 自動火災報知設備 | ¥20,000,000 |
| 消防用設備・自家発電設備 | ¥20,000,000 |
| 高圧電気設備・幹線設備・配電設備 | ¥10,000,000 |
| エレベーター設備 | ¥20,000,000 |
| ナースコールの新調 | ¥10,000,000 |
| 介護ベットの調 | ¥20,000,000 |
| 廊下、食堂の内装 | ¥150,000,000 |
| 居室・リビング | ¥100,000,000 |
| LED照明器具に変更 | ¥3,000,000 |
| 浴室 | ¥40,000,000 |

H30年度 デイサービス部会調査概要報告書

1) 利用者数、利用率

H28・H29年度の利用者数、利用率については、減少傾向にあるが、介護度の重度化（2.4→2.9）が明確に表れている。

2) 介護職員数

配置しなければいけない介護職員の人数に対し、殆どの施設で倍に近い人数の配置を実施している。（9月3日～7日の配置しなければならない職員数平均2.78人に対し、実際は1.8倍の5.1人を配置している）

これは上の平均介護度が重度化したことによる、介護に掛かる手間等が増えていることが分かる。

3) 平成30年度9月の要介護者・要支援者の入浴実施率（%）

要介護者の入浴率は**76.6%**と8割近く、

要支援者の入浴率は**49.7%**と5割の方々が入浴をしている。

1日の中で入浴介助に関わる職員の延べ人数については、**4.18人**と

入浴介助の手間が大分掛かることが数字から見えてくる。

上記の、配置している介護職の人数（**5.1人**）に対して、入浴介助の人員が**4人**とすると、トイレ等の誘導や、ホールでの見守りに職員が1名のみでの対応をしている事になる。

4) 人材確保に関する、介護職員・看護職員の採用について

介護人材確保のために各施設がこれまでに利用した媒体については、

- 1) ハローワーク - 16 施設
- 2) 新聞広告 - 12 施設
- 3) ネット - 7 施設
- 4) その他 - 7 施設
- 5) 募集なし - 5 施設

と半数以上の施設において職員募集の掲載を実施している。

また、広告の掲載期間については、

- 1) 2～6ヶ月 — 11施設
- 2) 2週間以上 — 6施設
- 3) 1～3日 — 5施設
- 4) 1ヶ月以上 — 3施設
- 5) 1ヶ月未満 — 2施設
- 6) 1年以上 — 2施設

と最短3日から最長1年以上といった期間で募集を掲載している。

また、掲載費用についても、5万以上の経費を掛けている施設が30施設近くあり、

その中でも10万以上の経費を使用している施設が15施設と、

大半の施設で日常的に求人募集を掲載する必要があり、人材確保について多大な労力・経費が掛かっていることが見えてくる。

これらの求人募集により雇用した人数は有資格者20名・無資格者14名と、

高額な経費を費やしても採用に繋がる人材はかなり限定されてきている。

5) 60歳以上・70歳以上の介護職員/看護職員の数

| 60歳以上の介護職員 | |
|------------|-----|
| 常勤 | 非常勤 |
| 16 | 42 |

| 60歳以上の看護職員 (NS) | |
|--------------------|-----|
| 常勤 | 非常勤 |
| 4 | 32 |

| 70歳以上の介護職員 | |
|------------|-----|
| 常勤 | 非常勤 |
| 3 | 8 |

| 70歳以上の看護職員 (NS) | |
|--------------------|-----|
| 常勤 | 非常勤 |
| 1 | 13 |

上記の表から見て取れるように、60歳以上・70歳以上の介護職員数の割合がかなり多いことが分かる。介護職員の高齢化が問題視されているが、明確に数字に表れている。職場内での世代交代が難しい時代に突入していく中、介護人材として貴重な職員である

が、現場での介護・介助等を考慮すると、いかに若手の職員が不足しているか、必要不可欠かが理解できる。

6) 事業所の中で、乳児（0-2歳）幼児（3-5歳）を持つ介護職員・看護職員の数

| | | | |
|---------|---------|-----|--------|
| 乳児(0-2) | 幼児(3-5) | 産休中 | 職場復帰希望 |
| 18 | 41 | 6 | 7 |

近年、就労する保護者のために、企業主導型保育所等の設置が多く見受けられ、認可・認定・無認可保育所なども設置数が増加している傾向にあります。保育士として就労する保護者の子どもは優先的に保育園に入園できており、同じ社会福祉法人(保育園・高齢者事業の両方を運営する法人)の高齢者事業所で働く介護職員の優先度は一般(地域枠)の保護者と同じであり、近年の介護職の人材不足の中で、保育士は優遇され、介護職はされないといった現象が起きている。今回の調査で、事業所内で乳児・幼児を持つ職員が上記の様に多数存在し、これら全ての児童が入園出来ているかは調査していないが、これからの介護人材の確保の為に、保育園・幼稚園への優先的な入園が出来るよう配慮すべきと考えられる。

7) 貴施設において雇用したい職種を教えてください

| 介護福祉士 | ナース (正・准) | PT/OT | 管理栄養士 | 歯科衛生士 | 事務 | 調理師 | 運転手 |
|--------|--------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 雇用希望人数 | 雇用希望人数 | 雇用希望人数 | 雇用希望人数 | 雇用希望人数 | 雇用希望人数 | 雇用希望人数 | 雇用希望人数 |
| 52 | 22 | 8 | 0 | 0 | 2 | 3 | 28 |

上記の表から見て取れるように、介護福祉士、看護師、運転手が最も雇用したい人材のトップである。近年では介護職の育成校も生徒の減少から、赤字回避のためクラスを閉鎖するところも多数出ており、上で記載した職員募集の掲載期間からしても、退職者1名のポジションを穴埋めすることすら容易ではないことが理解できる。また運転手に関しても同様、若手(40~60代)の運転手の確保は困難であり、介護職が送迎を兼務するというのが現状かと思われる。

8) 貴施設における人材育成・獲得のための課題

| | |
|--------------|----|
| 加算算定用件を満たすため | 18 |
| 業務の効率を図る | 31 |
| 人件費予算の獲得 | 11 |
| 人材育成のための時間 | 28 |
| 募集広告費 | 14 |
| 行政からの支援 | 13 |

介護報酬改定によりデイサービスの単価が下り、サービス利用活動費の減額をカバーするためには、新規利用者人数の確保のほかに、各種加算を取る方法が、運営改善の解決策となっており、表から分かるように、**1) 業務効率化、 2) 人材育成の時間、 3) 加算算定用件を満たすため、**といった順に、人材確保が困難であれば、業務効率化はおろか、介護報酬以外で運営に必須な資金元となる加算の算定、施設継続のための人材育成（世代交代）も不可能になっていくことがあきらかである。

まとめ：

この度のデイサービス調査では、人材確保に関して焦点を置き実施致しました。調査結果から分かることは、相模原市内の殆どの施設において断続的に人材確保が困難であり、施設が多大な労力・資金を投じて努力しているにも関わらず、良い結果が出ていないということである。

これから迎える少子化+超高齢者社会に向けて、各々の施設が取り組まなければいけないことが多々ある中で、一番必要不可欠である人材の確保・育成の課題を解決出来ないのであれば、閉鎖に追い込まれる施設が出てくることは明確です。

さきに述べた様に、社会福祉事業を運営する法人では保育所と高齢者施設の両方を運営している法人もあります。しかしながら、同じ法人で働く保育士の児童は入園出来て、高齢者施設で働く職員の児童が入園出来ないといったことが起きています。

また、育成校の介護職クラスの減少・閉鎖により、職員の確保が困難になっていることも解決すべき課題の一つであり、E P A（経済連携協定）での外国人労働者受入れに関しても、デイサービスは対象外のため国内の労働力に頼らざるを得ないのが現状です。

上記を考慮し、行政と高齢者事業施設との連携を強化し、早急に人材確保についての解決策を見出すことが緊要である。

1) 利用者数、利用率（四捨五入し小数点以下第2位まで）をご記入下さい

| H28年度 | | | H29年度 | | |
|---------|--------|-------|---------|--------|-------|
| 延べ人数 | 利用率(%) | 平均介護度 | 延べ人数 | 利用率(%) | 平均介護度 |
| 256,348 | 71.3 | 2.4 | 255,385 | 68.46 | 2.92 |

2) 介護職員数をご記入ください

| | H30.9.3 | H30.9.4 | H30.9.5 | H30.9.6 | H30.9.7 |
|----|-------------------|---------|---------|---------|---------|
| | (ア) 配置しなければならない人数 | | | | |
| | (イ) 実際に配置した人数 | | | | |
| | (ウ) 職員充足率 (イ÷ア) | | | | |
| ア) | 2.9 | 2.6 | 2.8 | 2.8 | 2.8 |
| イ) | 5.12 | 5.16 | 5 | 4.9 | 5.2 |
| | 1.76倍 | 1.94倍 | 1.77倍 | 1.77倍 | 1.83倍 |

3) 平成30年度9月の要介護者の入浴実施率（%）をご記入下さい

| |
|---------------------|
| H30.9の要介護者入浴実施率 (%) |
| 76.60% |

4) 平成30年度9月の要支援者の入浴実施率（%）をご記入下さい

| |
|---------------------|
| H30.9の要支援者入浴実施率 (%) |
| 49.70% |

5) 1日の中で入浴介助に関わる職員の延べ人数をご記入下さい（着脱介助も含む）

| |
|----------------|
| 入浴介助に関わる職員数（人） |
| 4.18人 |

6) 人材確保に関する、介護職員・看護職員の採用についてご記入をお願いします（H29年度）

職員募集にどのような媒体を使用していますか？

| | | | | | |
|------|----|--------|----|-----|---|
| 新聞広告 | 12 | ハローワーク | 16 | ネット | 7 |
| その他 | 4 | 募集なし | 5 | | |

募集広告に費やした費用は幾らですか？

| | |
|-------|----|
| 1～2万 | 2 |
| 3～5万 | 6 |
| 6～8万 | 2 |
| 9～10万 | 4 |
| それ以上 | 15 |

採用した職員は有資格者ですか？

| | | | |
|------|----|-----|----|
| 有資格者 | 20 | 無資格 | 14 |
|------|----|-----|----|

掲載期間はどれくらいですか？

| | | | | | | | |
|-------|---|-------|----|--------|---|-------|---|
| 1～3日 | 5 | 1週間以上 | 4 | 2週間以上 | 6 | 1ヶ月未満 | 2 |
| 1ヶ月以上 | 3 | 2～6ヶ月 | 11 | 6～12ヶ月 | 2 | 1年以上 | 2 |
| 不明 | 1 | | | | | | |

7) 60歳以上の介護職員/看護職員の数をご記入下さい (現在)

| 60歳以上の介護職員 | |
|------------|-----|
| 常勤 | 非常勤 |
| 16 | 42 |

| 60歳以上の看護職員 | |
|------------|-----|
| 常勤 | 非常勤 |
| 4 | 32 |

8) 70歳以上の介護職員/看護職員の数をご記入下さい (現在)

| 70歳以上の介護職員 | |
|------------|-----|
| 常勤 | 非常勤 |
| 3 | 8 |

| 70歳以上の看護職員 | |
|------------|-----|
| 常勤 | 非常勤 |
| 1 | 13 |

9) 事業所の中で、乳児(0-2歳) 幼児(3-5歳)を持つ介護職員・看護職員の数
また、現在、産休中の職員の数をご記入ください。(現在)

| 乳児(0-2) | 幼児(3-5) | 産休中 |
|---------|---------|-----|
| 18 | 41 | 6 |

10) 上記の産休中の職員の中で職場復帰を希望している職員の数

| 職場復帰 |
|------|
| 7 |

11) 貴施設において雇用したい職種を教えてください

| 介護福祉士 | ナース(正・准) | PT/OT | 管理栄養士 | 歯科衛生士 | 事務 | 調理師 | 運転手 |
|--------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 雇用希望人数 | 雇用希望人数 | 雇用希望人数 | 雇用希望人数 | 雇用希望人数 | 雇用希望人数 | 雇用希望人数 | 雇用希望人数 |
| 52 | 22 | 8 | 0 | 0 | 2 | 3 | 28 |

12) 貴施設における人材育成・獲得のための課題について選択してください (複数選択可)

| | |
|--------------|----|
| 加算算定要件を満たすため | 18 |
| 業務の効率を図る | 31 |
| 人件費予算の獲得 | 11 |
| 人材育成のための時間 | 28 |
| 募集広告費 | 14 |
| 行政からの支援 | 13 |

12-2) その他、ご意見・ご要望等ありましたらご記入下さい

職員配置につきましては、兼務管理者、常勤相談員、常勤看護師は
人数カウントから外しております。

60歳以上の非常勤の介護職2名は運転手兼介護職員で歩行手引き車椅子の
介助はありますが、それ以外の介護はしておりません。

平成29年度は運転手兼介護職員の採用しかしておらず、
ハローワークでしたので広告経費がかかっておりません。

夜勤がなく、勤務時間の決まっているデイサービス職員は比較的確保しやすく、
現状では困っていないが、女性比率が高く、送迎の運転業務に関わる職員は、
住宅街の狭い道での運転にストレスを感じているようだ。

デイサービスでの専従専任の機能訓練指導員を

2年ほど募集し続けているが来ない。

職員募集に使った媒体は求人誌だった（ハローワークも利用）。

平均介護度低下は相模原市内の特別養護老人ホーム供給過剰の為介護度の高い方から入
所になってしまった事が原因の一つと思われる。

今のうちから介護の手間の多い利用者を受け入れる在宅サービスを増やし、
質を上げなければ今後高齢者が更に増加し

入所できない方が増えると在宅サービスにも
受け入れ先がなくなることになるでしょう。

養護・ケアハウス調査結果 概要報告

H29. 12. 29 養護・ケアハウス部会

(注)「・」とある項目は調査結果の概要報告、「※」は集計者の分析である

1. 入居者状況について

(1) 入居状況

(人)

| | ケア従来 | ケア特定 | 養護 | 合計 |
|---------|------|------|----|-----|
| 定員 | 178 | 40 | 80 | 298 |
| 現入居者数 | 165 | 40 | 78 | 283 |
| 未実施・自立 | 62 | 0 | 41 | 103 |
| 要支援・要介護 | 103 | 40 | 37 | 180 |

- ・従来型ケアハウスの現入居者数は、13名の欠員であった。昨年の調査では、5名であり+8名増となっている。内訳は2人室への1人入居による欠員が3室(3人欠員)、あとは、2人室空室3室、1人室空室4室であった。
- ・養護については措置施設であるが欠員は昨年と同じく2名である。

(2) 入居者の年齢、介護度の状況

①年齢分布

(人)

| | -64 | 65-69 | 70-74 | 75-79 | 80-84 | 85-89 | 90-94 | 95- | 計 |
|------|-----------|-------|-------|-----------|-------|-----------|-------|-----|-----|
| ケア従来 | 0 | 6 | 4 | 32 | 44 | 52 | 18 | 9 | 165 |
| | 10(6.1%) | | | 76(46.0%) | | 79(47.9%) | | | |
| ケア特定 | 0 | 1 | 3 | 10 | 11 | 7 | 3 | 5 | 40 |
| | 4(10.0%) | | | 21(52.5%) | | 15(37.5%) | | | |
| 養護 | 1 | 6 | 12 | 17 | 15 | 16 | 7 | 4 | 78 |
| | 19(24.4%) | | | 32(41.0%) | | 27(34.6%) | | | |

②要介護度状況

(人)

| | 未自立 | 支援1 | 支援2 | 介護1 | 介護2 | 介護3 | 介護4 | 介護5 | 計 |
|------|---------|-----------|-----|-----------|-----|-----------|-----|-----|-----|
| ケア従来 | 62 | 19 | 31 | 31 | 15 | 4 | 3 | 0 | 165 |
| | (37.6%) | 50(30.3%) | | 46(27.9%) | | 7(4.2%) | | | |
| ケア特定 | 0 | 1 | 4 | 11 | 11 | 11 | 1 | 1 | 40 |
| | | 5(12.5%) | | 22(55.0%) | | 13(32.5%) | | | |
| 養護 | 41 | 0 | 3 | 10 | 8 | 2 | 12 | 2 | 78 |
| | (52.6%) | 3(3.9%) | | 18(23.0%) | | 16(20.5%) | | | |

- ・年齢分布、要介護度状況とも、29年度と大きな変化はない。
- ・従来型ケアハウスでも85歳以上の入居者が占める割合は50%弱になり、要支援1以上入居者は、62.4%と6割を超え、うち、要介護1以上の入居者は32.1%と30%を超えている。
- ・特定型ハウスでは要介護3以上が30%を超えている。
- ・養護は、未認定の入居者が5割を占めている反面、要介護3以上は20%と超えており、利用者像が二極化している。

(3) 入居待機者状況

| | | | 直近希望 | 期日指定なし | 小計 | 入居レベル |
|------|------|----|------|--------|-----|-------|
| 30年度 | ケア従来 | 単身 | 77 | 57 | 134 | 4 |
| | | 2人 | 6 | 16 | 22 | 1 |
| | ケア特定 | | 14 | 5 | 19 | 8 |
| | 養護 | | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 29年度 | ケア従来 | 単身 | 31 | 66 | 97 | 6 |
| | | 2人 | 4 | 16 | 20 | 0 |
| | ケア特定 | | 19 | 2 | 21 | 5 |
| | 養護 | | 1 | 0 | 1 | 0 |
| 増減 | ケア従来 | 単身 | +46 | △9 | +37 | △2 |
| | | 2人 | +2 | 0 | +2 | +1 |
| | ケア特定 | | △5 | +3 | △2 | +3 |
| | 養護 | | △1 | 0 | △1 | 0 |

- ・入居待機者状況として、ケアハウス従来型単身の入居希望者は昨年度と比べ+37名となった。特にその中でも直近入居希望が+46名となったことが注目される。タウンニュース広告や各施設のPRが一定のニーズの掘り起こしをしたことが想定できる。
- ・一方、2人室は+2名、特定型は△5名であり、従来型単身部屋との差が大きくなった。

※入居者状況については、今年度の調査結果から、ケアハウスに対するニーズの変化がよりはっきりしてきた。

※高齢化、重度化の傾向は、平成29年度と比べ大きな趨勢の変化はなかった。この調査の都度、高齢化・重度化してきたが、平成30年度はその傾向が止まり、若干の平均年齢低下と平均要介護度の低下があった。

しかしながら、養護・ケアハウスは、もともと自立している入居者を中心に想定された制度設計がされている。昨年の当調査の指摘では、これ以上の高齢化・重度化は転倒や事故へのリスクが高まり、見守り支援などが行き届かない現状にケアの見直し（＝制度の見直し）が必要であるとあるが、その状況は変わっていないと思われる。

また、特養の入所要件が要介護 3 以上となっていることや負担できる費用の問題などから、重度や認知症ケアが必要な入居者の次の行く先が調整できず、養護・ケアハウスで対応せざるを得ないという状況であるという意見も昨年と同様に寄せられている。

※これらのことを踏まえて、本年度調査の入居者、入居待機者状況の調査結果からは、以下のことが言える。

- ①**従来型 2 人室**については、**明らかにニーズが低くなっている**。従来より指摘されてきたことではあるが、今年度は特に単身部屋への希望は増加し、従来型の 2 人室は伸び悩んだ。部会全体として PR に力を入れているので単身部屋と比べ、2 人室へ需要(ニーズ)の差がよりはっきりした。入居状況も**従来型ケアハウスの欠員数 13 名のうち、9 名が 2 人室の欠員**となっている。
- ②**従来型単身部屋の待機者数は増加した**。一定の PR 効果があったことが伺える。しかしながら**単身部屋の欠員は 4 名**ある。従来型の要介護度の状況は昨年度とあまり変化はないため、施設の入居者の状態像のバランスにより、早期の入居が進まない結果、欠員状態となる場合も想定される。
- ③**特定型**については、入居状況は満室であるが、**待機者が今年度は減っている**。自立型と同様に PR しているので、このことが**特定型へのニーズの変化の結果であるのか**さらなる注視と分析が必要である。
- ④**養護は、欠員状態があるにも関わらず、待機者がいない**。措置施設であり、相模原市の政策動向に大きく左右される運営となるため、非常に不安定な状況になっているといえよう。

以上の状況から養護・ケアハウス（従来型・特定）は、従前より当部会で主張しているとおり、有料老人ホームやサービス付高齢者専用住宅の増加や特養施設の新設等、環境の変化を踏まえて「**補助金を投入した準公的な施設としてのあり方を具体的に検討し政策転換すること**」が急務であることがうかがえる。

2. 人材確保の状況（常勤及び非常勤職員の総計）

- ・介護職員の採用・離職状況は、**採用 8 人に対し、離職 7 人**となり、離職者数が上回った昨年と比べ、本年度は採用者数が上回った。
- ・**60 歳以上の介護職員数は 20 人と**昨年の 15 人より増加した。特に定年後の再雇用者数が 1 名から 9 名と大きく増加している。
- ・外国人採用施設は昨年と同じく 1 名であった。
- ・求人状況と 10 施設中 6 施設が求人を出しており、ほぼ求人どおりの応募があった施設が 2 施設、求人を下回った施設が 4 施設となった。この中では、**非常勤を募集した 4 施設のうち、3 施設が求人を下回っていた**。

※調査対象施設数は10施設だが、採用・離職者数が昨年より増加(昨年は採用1名、離職4名)した中で、60歳以上の介護職員数や定年の再雇用者数が増加したという結果からは、職員の高齢化が進んでいることがうかがえる。

※特に非常勤職員の採用が進まないという傾向からは、今後さらに人員確保が厳しくなる可能性がある。

- ・人材確保・離職防止に向けた取り組みでは、昨年と大きな変化はないが、「休暇取得の推進」、「資格取得への支援」、「能力開発・研修費の充実」、「給与水準の引き上げ」に取り組んでいる施設が特に多かった。

※人材育成の課題と解決策、市への要望では以下のような意見があった(複数施設の意見をまとめている)。

【課題】

介護技術全般において、知識や経験不足がある。人材として、未経験や無資格、あるいは短時間でも介護職の確保が必要だが、法人内で育成していく人的な余裕がない。

【解決策】

外部研修の参加や施設内研修の実施にて、知識・スキルアップの向上に努めることや現場内においての職員指導を随時実施して行く必要がある。

特に現場に配属する前に「介護職としてのはじめの一歩」的な研修を実施し、仕事になじむように支援をする体制をつくる。

【市への要望】

介護人材センターの稼働や市高齢協への委託等により、介護のしごとのオリエンテーションとなるような研修(基礎的な技術+接遇+チームケアの役割の実践的な理解などで、職場ですぐに役立つことを実感できる内容)を実施してほしい。

3. 防災・大規模災害時の対応について

(1) 大規模災害発生時に行政に協力してほしいこと・協力できること

- ・協力してほしいこととしては、食料や消耗品の確保について施設での備蓄では地域の要介護者への支援に不十分なため、行政に支援してほしいという意見が7施設よりあった。
- ・また、2施設より、行政からの速やかかつ正確な情報提供が必要との意見があり、その手段として、衛星電話の設置の補助を求める意見があった。
- ・協力できることは、災害時の要援護者を中心とした避難場所や介護サービスの提供が上げられている。

(2) 大規模災害発生時に施設間で協力してほしいこと・協力できること

- ・被災状況により、施設間の利用者の相互受け入れなど、相互に協力しあうことが必要であるという回答が大半であった。また、そのための相互の連絡手段として衛星電話等災害に強い通信手段が必要という意見もあった。

(3) 大規模災害発生時に地域へ協力できること・地域でしてほしいこと

- ・各施設とも、要援護者の受入れの他、「炊き出しでの協力」、「井戸水の提供」、「入浴の提供」、「災害情報提供拠点となる」など、具体的な提案があった。

(4) 大規模災害発生時に課題だと感じていること

- ・「職員の確保（特に単身職員以外）」、「備蓄物資（3日間）が終わったあと対応」、「断水時の支援」などの課題が挙げられたが、特に「災害発生時の職員(人材)の確保」を課題に挙げている施設が多かった。

※各施設ともBCP計画の策定とともに、地域との協力体制や施設間での協力体制・通信手段の確保などについて、具体策を建てていく必要がある。当部会や高齢協全体としてもさらに着実に取り組むべき課題であろう。

4. 施設の建て替え及び大規模改修について

- ・施設の建築経過年数は15年～22年であり、施設の建て替え期間中の借用可能施設を希望する施設は7施設で昨年と同様の結果であった。
- ・課題としては「資金の確保」を上げた施設が3施設あった。解決策として、「まず第一にケアハウスの将来についての政策的検討（必要か否か）」、「このようなアンケートにより市内施設の希望を早めに把握し、行政と連携して最善の策を早めに策定すること」、「借用及び補助」と、行政を巻き込んだ検討が共通して上げられている。
- ・また、市への要望として、「ケアハウスが必要であれば立替に向けて補助を、ニーズの変化があれば、転換を」、「代替施設等を含めて、長期的な計画を策定してほしい」、「補助金の拡充と充実」など、いずれも、行政の政策判断を求めるものだった。
- ・大規模改修について、外壁工事、防水工事、給排水工事、その他、エレベーターや自動火災報知機工事など検討されており、昨年調査と同様の内容となっている。

※建て替えと大規模改修は、長期的課題と短・中期的課題としてとらえられる。

建て替えについては、長期的課題として、代替施設も含め、相模原市が政策的に養護老人ホーム・ケアハウスをどうしていくのか、政策的な長期見通しを早く示してほしいという意見が多い。

反面、大規模改修は、短・中期的課題として、「待ったなし」「必ず必要」である切迫性がある。具体的に早期に資金確保の見通しをつけ着実に実施しなければ、サービス提供上のリスクが高まるという点で、全ての施設が苦慮していることがうかがえた。

5. 施設としての取り組むべき直近の課題

- ・課題や意見としてあげられたものは以下のとおり
 - *退居する場合の退居先として特養入所が厳しくなり、利用料同額程度の選定が困難
 - *介護施設化（重度化）への対応
 - *運営に関する補助金は創設当初より変動が無く、消費税率の増加や物価変動に対して年々収支が悪化する（適正な補助金の是正をするべき）
 - *待機者の減少（特に2人室・特定型）
 - *身元保証人の問題と家族との協力体制（身元保証人も高齢化している）
 - *建物の営繕や空調等の機器のメンテナンスなど建物維持の課題

※昨年の調査でも指摘されており、本年度の調査でも明らかだが、ここであげられた課題は、「養護・ケアハウスの当初想定された本来の役割が変化しつつあり、地域の状況や入居対象となる高齢者の状況を踏まえ、この変化に対応する必要がある」ということである。

※特に「重度化への対応」、「退居する場合の退居先の問題」、「身元保証人問題」、「2人室の空室・待機者減」については、各施設が「今」直面している課題である。さらに「補助金のあり方」は、そのまま「ハウスの必要性」の課題に直結するため、引き続き具体的な検討を相模原市と着実に積み上げていく必要がある。

6. ケアハウス生活費改定に伴う結果について、経営への影響の状況

- ・現状維持(44,810円)は3施設、46,000円～50,000円前後の改定を行ったのは6施設で昨年と変わらない結果であった。
- ・金額を変更した施設の意見では、「経営に対しては好影響であった」、「生活費を上限額まで引き上げたが、それ以上の事業費（主に修繕費）がかかっており、安定した運営までの収入源に至っていないのが現状である。」、「原材料費等のコストアップもあり、赤字幅が幾分減少となった程度である。」とあった。

※現状維持の3施設の一部からは、「本当は値上げしたいが、待機者確保のために上げられない」という意見もあり、「生活費改定すること＝経営への好影響」とは必ずしもなっていない。

本調査全体での結果でもあるが、制度の組み立てそのものの見直しが必要であることがこの項目の回答からもうかがえる。

以上

養護・ケアハウス調査票（集計シート）

| | | | |
|------|------------|------|--|
| 施設種別 | ケアハウス（従来型） | 施設名 | |
| 記載者名 | （職） | （氏名） | |

本調査では、市内ケアハウスの利用と需要の実態を把握し、今後のケアハウスのあり方について考える基礎データを得ることと、共通調査として「求人の実態」と「大規模災害対応」「施設の建て替え及び大規模改修」についてお尋ねしています。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

平成30年10月1日現在について、次の表の該当事項を記入ください

1. 入居者状況について

(1) 入居者定員及び入居者数 (人)

| | | | |
|--------|-----|-------|---------|
| 定員 | 178 | 現入居者数 | 165 (a) |
| 単身部屋定員 | 146 | 単身部屋 | 142 |
| 二人部屋定員 | 32 | 二人部屋 | 23 |

(2) 入居者の性別・年齢別内訳 (人)

| | ～64 | 65～69 | 70～74 | 75～79 | 80～84 | 85～89 | 90～94 | 95～ | 計 |
|----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|
| 男性 | 0 | 3 | 2 | 11 | 6 | 12 | 5 | 1 | 40 |
| 女性 | 0 | 3 | 2 | 21 | 38 | 40 | 13 | 8 | 125 |
| 計 | 0 | 6 | 4 | 32 | 44 | 52 | 18 | 9 | 165 |

(3) 入居者の介護度別状況

| 認定未実施 | 自立 | 要支援1 | 要支援2 | 要介護1 | 要介護2 | 要介護3 | 要介護4 | 要介護5 | 計 |
|-------|----|------|------|------|------|------|------|------|-----|
| 30 | 32 | 19 | 31 | 31 | 15 | 4 | 3 | 0 | 165 |

2. 入居待機者（空室待ち）の状況について

(1) 入居待機者の性別・年齢別内訳（単身部屋）

| | ～64 | 65～69 | 70～74 | 75～79 | 80～84 | 85～89 | 90～94 | 95～ | 計 |
|----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|
| 男性 | 0 | 3 | 2 | 4 | 9 | 2 | 7 | 0 | 27 |
| 女性 | 2 | 5 | 8 | 24 | 24 | 28 | 20 | 0 | 111 |
| 計 | 2 | 8 | 10 | 28 | 33 | 30 | 27 | 0 | 138 |

(2) 入居待機者の待機状況内訳（単身部屋）

| 直近で入居を希望されている | 期日指定が無い希望者 | 入居レベルに達していない希望者 | 計 |
|---------------|------------|-----------------|-----|
| 77 | 57 | 4 | 138 |

(3) 入居待機者の性別・年齢別内訳（二人部屋）

| | ～64 | 65～69 | 70～74 | 75～79 | 80～84 | 85～89 | 90～94 | 95～ | 計 |
|----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|----|
| 男性 | 0 | 1 | 1 | 3 | 2 | 4 | 1 | 0 | 12 |
| 女性 | 2 | 1 | 3 | 2 | 4 | 2 | 0 | 0 | 14 |
| 計 | 2 | 2 | 4 | 5 | 6 | 6 | 1 | 0 | 26 |

(4) 入居待機者の待機状況内訳（二人部屋）

| 直近で入居を希望されている | 期日指定が無い希望者 | 入居レベルに達していない希望者 | 計 |
|---------------|------------|-----------------|----|
| 6 | 16 | 1 | 23 |

3. 入居者所得状況について

(1) 入居者階層区分内訳

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 計 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---------|
| 83 | 12 | 14 | 5 | 17 | 9 | 4 | 8 | 5 | 180 (a) |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | |
| 2 | 8 | 1 | 10 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | |

養護・ケアハウス調査票

| | | | |
|------|-----------|------|--|
| 施設種別 | ケアハウス（特定） | 施設名 | |
| 記載者名 | （職） | （氏名） | |

本調査では、市内ケアハウスの利用と需要の実態を把握し、今後のケアハウスのあり方について考える基礎データを得ることと、共通調査として「求人の実態」と「大規模災害対応」「施設の建て替え及び大規模改修」についてお尋ねしています。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

平成30年10月1日現在について、次の表の該当事項を記入ください

1. 入居者状況について

(1) 入居者定員及び入居者数 (人)

| | | | |
|--------|----|-------|---|
| 定員 | 40 | 現入居者数 | 40 (a) |
| 単身部屋定員 | 40 | 単身部屋 | 40 |
| 二人部屋定員 | 0 | 二人部屋 | 0 |

(2) 入居者の性別・年齢別内訳 (人)

| | ～64 | 65～69 | 70～74 | 75～79 | 80～84 | 85～89 | 90～94 | 95～ | 計 |
|----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|----|
| 男性 | 0 | 1 | 3 | 2 | 2 | 0 | 2 | 1 | 11 |
| 女性 | 0 | 0 | 0 | 8 | 9 | 7 | 1 | 4 | 29 |
| 計 | 0 | 1 | 3 | 10 | 11 | 7 | 3 | 5 | 40 |

(3) 入居者の介護度別状況

| 認定未実施 | 自立 | 要支援1 | 要支援2 | 要介護1 | 要介護2 | 要介護3 | 要介護4 | 要介護5 | 計 |
|-------|----|------|------|------|------|------|------|------|----|
| 0 | 0 | 1 | 4 | 11 | 11 | 11 | 1 | 1 | 40 |

2. 入居待機者（空室待ち）の状況について

(1) 入居待機者の性別・年齢別内訳（単身部屋）

| | ～64 | 65～69 | 70～74 | 75～79 | 80～84 | 85～89 | 90～94 | 95～ | 計 |
|----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|----|
| 男性 | 0 | 0 | 1 | 3 | 1 | 2 | 0 | 0 | 7 |
| 女性 | 0 | 0 | 1 | 3 | 7 | 6 | 0 | 0 | 17 |
| 計 | 0 | 0 | 2 | 6 | 8 | 8 | 0 | 0 | 24 |

(2) 入居待機者の待機状況内訳（単身部屋）

| 直近で入居を希望されている | 期日指定が無い希望者 | 入居レベルに達していない希望者 | 計 |
|---------------|------------|-----------------|----|
| 14 | 5 | 8 | 27 |

3. 入居者所得状況について

(1) 入居者階層区分内訳

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 計 | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|--|
| 24 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 40 (a) | |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | | |
| 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | | |
| 19 | 20 | 21 | | | | | | | | |
| 0 | 0 | 0 | | | | | | | | |

養護・ケアハウス調査票

| | | | |
|------|-----|------|--|
| 施設種別 | 養護 | 施設名 | |
| 記載者名 | (職) | (氏名) | |

本調査では、市内養護老人ホームの利用と需要の実態を把握し、今後のケアハウスのあり方について考える基礎データを得ることと、共通調査として「求人の実態」と「大規模災害対応」「施設の建て替え及び大規模改修」についてお尋ねしています。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

平成30年10月1日現在について、次の表の該当事項を記入ください

1. 入居者状況について

(1) 入居者定員及び入居者数 (人)

| | | | |
|--------|----|-------|---|
| 定員 | 80 | 現入居者数 | 78 (a) |
| 単身部屋定員 | 80 | 単身部屋 | 78 |
| 二人部屋定員 | 0 | 二人部屋 | 0 |

(2) 入居者の性別・年齢別内訳 (人)

| | ～64 | 65～69 | 70～74 | 75～79 | 80～84 | 85～89 | 90～94 | 95～ | 計 |
|----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|----|
| 男性 | 1 | 2 | 8 | 10 | 3 | 2 | 2 | 0 | 28 |
| 女性 | 0 | 4 | 4 | 7 | 12 | 14 | 5 | 4 | 50 |
| 計 | 1 | 6 | 12 | 17 | 15 | 16 | 7 | 4 | 78 |

(3) 入居者の介護度別状況

| 認定未実施 | 自立 | 要支援1 | 要支援2 | 要介護1 | 要介護2 | 要介護3 | 要介護4 | 要介護5 | 計 |
|-------|----|------|------|------|------|------|------|------|----|
| 41 | 0 | 0 | 3 | 10 | 8 | 2 | 12 | 2 | 78 |

2. 入居待機者（空室待ち）の状況について

(1) 入居待機者の性別・年齢別内訳（単身部屋）

| | ～64 | 65～69 | 70～74 | 75～79 | 80～84 | 85～89 | 90～94 | 95～ | 計 |
|----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|---|
| 男性 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 女性 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

(2) 入居待機者の待機状況内訳（単身部屋）

| 直近で入居を希望されている | 期日指定が無い希望者 | 入居レベルに達していない希望者 | 計 |
|---------------|------------|-----------------|---|
| 0 | 0 | 0 | 0 |

3. 入居者所得状況について

(1) 入居者階層区分内訳

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 計 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| 22 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 74 (a) |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | |
| 2 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | |
| 2 | 2 | 4 | 4 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | |
| 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | |
| 5 | 3 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | |
| 37 | 38 | 39 | | | | | | | |
| 0 | 1 | 9 | | | | | | | |

【以下は、養護・ケアハウス(従来型・特定型)全体の集計】

4. 人材確保に関する、介護職員採用状況についてお尋ねします。 ※以下黄色ノセルは数値のみ入力

(1) 介護職員の採用・離職状況についてご記入願います (H28.4.1~H29.3.31の間)

| | 常勤 | 非常勤 | 計 |
|-------------------|----|-----|----|
| 採用者数 | 4人 | 4人 | 8人 |
| (採用者のうち介護系新卒者) | 1人 | 0人 | 1人 |
| (採用者のうち介護系以外の新卒者) | 0人 | 0人 | 0人 |
| 離職者数 | 2人 | 5人 | 7人 |

(2) 60歳以上の介護職員の人数をご記入ください。

| | 常勤 | 非常勤 | 計 |
|------------------|----|-----|-----|
| 60歳以上 | 3人 | 17人 | 20人 |
| (上記のうち、定年後の再雇用者) | 3人 | 6人 | 9人 |

(3) 在住外国籍および日本国籍の外国人の雇用についてお尋ねします。

| | 常勤 | 非常勤 | 計 |
|-----------|----|-----|----|
| 在住外国籍の外国人 | 0人 | 0人 | 0人 |
| 日本国籍の外国人 | 0人 | 1人 | 1人 |
| 計 | 0人 | 1人 | 1人 |

上記外国人雇用施設の方にお尋ねします。

| | |
|-------|--|
| 良かった点 | |
| 課題 | |

5. 職員の求人状況と結果 (今年度4月~9月) についてお尋ねします。

(1) 職員の求人状況について該当するものに○を選択してください。

※以下ブルーセルは、セルの▼をクリックして○を選択。間違いはDeleteで消去。

| 今年度4月から9月の間に | 常勤 | 非常勤 | 介護士 | 看護師 | その他 | その他の職種内容 |
|--------------|----|-----|-----|-----|-----|----------|
| 1.求人を実施した | 2 | 4 | 4 | 1 | 0 | |
| 2.求人を実施していない | 8 | 6 | 6 | 9 | 9 | |

注) 常勤…雇用形態ではなく、法人によって定められた常勤の従事者が勤務すべき時間数に達している職員としてご回答ください。

職員の求人を実施した施設は、求人の結果、該当するものに○を選択してください。

| | 常勤 | 非常勤 | 理由 |
|-----------------|----|-----|----|
| 1.求人を上回っていた | 0 | 0 | |
| 2.ほぼ求人通りの応募があった | 1 | 1 | |
| 3.求人を下回っていた | 1 | 3 | |
| 4.応募はあったが不採用 | 0 | 0 | |
| 5.その他 | 0 | 0 | |

(2) 人材確保・離職防止に向けた取り組み ※該当する箇所○を選択してください。また、その具体的内容をご記入ください。

| 取り組み | している | したい | 具体的内容 |
|--------------|------|-----|-------|
| ①資格取得への支援 | 6 | 3 | |
| ②キャリアアップの明示 | 4 | 3 | |
| ③給与水準の引き上げを | 5 | 1 | |
| ④能力開発・研修費の充実 | 6 | 2 | |
| ⑤労働環境の改善 | 2 | 4 | |
| ⑥休暇取得の推進 | 7 | 2 | |
| ⑦福利厚生の充実 | 4 | 3 | |

(3) 事業所で雇用したい職種とその人数についてご記入ください。

| 職種 | 常勤 | 非常勤（常勤換算） |
|-------------|----|-----------|
| 1.介護福祉士・介護士 | 2名 | 3名 |
| 2.正看護師・准看護師 | 0名 | 1名 |
| 3.理学・作業療法士 | 0名 | 0名 |
| 4.ケアマネージャー | 0名 | 0名 |
| 5.生活相談員 | 0名 | 0名 |
| 6.管理栄養士 | 0名 | 0名 |
| 7.歯科衛生士 | 0名 | 0名 |
| 8.事務 | 0名 | 0名 |
| 9.調理師 | 0名 | 0名 |

* 上記の職員を雇用することにより期待できると考えるサービスの質の内容についてご記入ください。（記入例：看護師を1名増員することにより看取り介護の導入が可能となる。）

| |
|--|
| |
|--|

(4) 貴施設における人材育成の課題と解決策および市への要望についてございましたら具体的にご記入ください。

| | | |
|-----|-------|--|
| 記入例 | 課題 | 喀痰吸引研修受講の費用と時間の確保が困難のため夜間吸引の必要な胃瘻の入所者の受け入れの課題となっている。 |
| | 解決策 | 夜勤を行う介護職員の喀痰吸引研修費用の負担軽減を行い解決する。 |
| | 市への要望 | 相模原市による研修受講費用の助成を継続する。 |

| | |
|-------|--|
| 課題 | |
| 解決策 | |
| 市への要望 | |

6. 防災についてお尋ねします。

大規模災害時の連携体制について <事業継続・福祉避難所としての機能充実のために>

(1) 大規模災害発生時に、行政に協力して欲しいこと・協力できることをご記入ください。

(2) 大規模災害発生時に、施設間で協力して欲しいこと・協力できることをご記入ください。

(3) 大規模災害発生時に、地域へ協力できること・地域でして欲しいことをご記入ください。

(4) 大規模災害発生時に課題だと感じていることをなんでもご記入ください。

| |
|--|
| |
|--|

7. 介護福祉施設の耐用年数は40～50年といわれています。東京都では、平成27年度から福祉施設の建て替え期間中に借用できる代替施設を整備する計画があります。相模原市における施設建て替え期間中に借用可能な代替施設の整備についてお尋ねします。

(1) 貴施設の建築年数は

| |
|-----|
| 22年 |
|-----|

(2) 施設建て替え期間中に借用可能な施設があれば利用を

| | | | |
|-------|---|-------|---|
| 希望する | 7 | 希望しない | 3 |
| その理由は | | | |

(3) 施設の建て替えに関する課題および解決策、市への要望がございましたら具体的にご記入ください。

| | |
|-------|--|
| 課題 | |
| 解決策 | |
| 市への要望 | |

8. 大規模改修についてお尋ねします。

(1) 計画もしくは検討している大規模改修の内容について該当するものに○を選択してください。

| | | | | | | | | |
|----|----|----|----|-----|----|-----|--------|---|
| 防水 | 防水 | 外壁 | 空調 | 給排水 | 給湯 | その他 | その他の内容 | 無 |
| 5 | 1 | 5 | 3 | 2 | 1 | 1 | | 3 |

(2) 改修内容ごとにかかる費用の予想額は

| 改修内容 | 予想額 |
|--|---------|
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>回答があったのは、7施設</p> <p>金額未定のものを除き、予想額の合計は 2億5千5百万円～3億5千5百万 (詳細は右表)</p> </div> | 【内容】 |
| | 【予想額】 |
| | 【予想額合計】 |

9. その他についてお尋ねします。

(1) 施設として取り組むべき直近の課題をご記入ください。

| | |
|-----|---|
| 記入例 | 保証人問題・一般財源化問題・介護施設化（重度化）問題 再生産（大規模修繕・建て替え）問題・サ高住制度施行による問題等 |
|-----|---|

(2) 平成28年より生活費改定に伴い、上限が5万円となりましたが、現在どのように対応されていますか？該当するものに○をつけて下さい。

| | |
|------------------------|---|
| 1. 現状維持（44,810円） | 3 |
| 2. 44,810円以上～46,000円未満 | 0 |
| 3. 46,000円以上～48,000円未満 | 1 |
| 4. 48,000円以上～50,000円 | 5 |

また、金額を変更した施設は、経営にどのような影響があったかを記入してください。

グループホーム・小規模多機能 調査結果 概要報告

グループホーム・小規模多機能部会

1. 基本利用料及び日用品、医療費などの負担額について

(1) 毎月の費用

利用料の平均は、15～16万円である。また、日用品や医療費等の負担額については、5千円～1万円が56名と最も多いが、1万5千円以上も14名となっており、介護保険一部負担金が大きな負担となっている。

(2) 生活保護受給者・低所得者の実態

平成30年10月時点の入居者数152名中、生活保護受給者受入数は、22名（14.4%）である。低所得者の負担軽減のため、福祉用具レンタル・デイサービスの利用選択が出来るるとよい。

2. 重度化について

(1) 要介護状態

平均介護度 3.0

要支援 20名

要介護1 22名、要介護2 34名、要介護3 39名、要介護4 30名、

要介護5 27名

(2) 看取り実施状況について

平成28年度2名、平成29年度3名、平成30年度上半期1名
現在3事業所で5名の看取りを行っている。

(3) 重度化の状況について

高齢化・重度化により、生活動作の中で全介助の方が増えてきている。
入浴介助47名が最も多く、排泄介助44名、移動介助31名、食事介助・常時車椅子利用24名と身体的介助が必要となってきている。

(4) ご利用者の活動について

買い物について、ほとんどの施設が実施しており平均回数は、1.8回/週である。料理への参加もほとんどの施設が実施しており、平均人数は、3.4人/日である。

3. 人材確保・介護職員採用状況について

(1) 介護職員の採用・離職状況について

28年度の採用者数37名（常勤19名・非常勤18名）である。そのうち、新卒者は、0名となっている。離職者は、19名（常勤9名・非常勤10名）であった。60歳以上の雇用は、46名で再雇用の職員は、2名のみである。

(2) 外国人の雇用について

9 施設中、日本国籍の外国人を雇用している施設は、2 施設のみ（3 名）であった。良かった点は、仕事に真面目に取り組む点、課題としては、難しい日本語が理解出来ない事が挙げられている。

4. 職員の求人状況について

(1) 求人状況と結果

平成 30 年 4 月～9 月の間に求人を実施した施設は、7 施設。介護職員の求人が最も多かったが、運転手・調理員の求人もあった。求人を行った全施設で、応募数は求人数を下回っていた。

(2) 人材確保と離職防止に向けた取り組みについて

資格取得への支援、キャリアアップの明示は、9 施設中 6 施設が実施している。その他にも借り上げ社宅制度の実施など様々な取り組みを行っているが、人材不足は続いている。

(3) 事業所で雇用したい職種について

常勤介護福祉士が、20 名と最も多く、サービスの質の向上や職員の休暇取得によるストレスの軽減が理由として挙げられている。

(4) 人材育成の課題と解決策について

人材不足の慢性化により、研修の充実や教育する職員の育成が課題となっている。

5. 防災について

大規模災害発生時に協力してほしい事は、情報の共有や介護人材の派遣、食料の確保に不安を抱えている事業所も多い。協力出来る事は、場所の提供や近隣施設との協力が挙げられている。

6. 施設建て替えについて

9 施設中、建て替えを希望している施設は、4 施設。財源不足が大きな課題となっている。

7. 大規模改修について

大規模改修を検討している事業所は、3 施設。空調設備の交換が 2 施設、給湯器設備の交換が 2 施設となっている。100 万円～1 千 500 万円の予算額を出している。

グループホーム調査票

| | | | |
|------|---------|------|--|
| 施設種別 | グループホーム | 施設名 | |
| 記載者名 | (職) | (氏名) | |

※以下黄色のセルは数値のみ入力

※ 貴ホームのユニット数と定員をご記入ください⇒ ユニット数 定員

本調査では、ご利用者の「費用負担」と「重度化」の状況を把握することにより、今後グループホームのあり方検討の一助としていきたいと思っています。
 このほかに共通調査事項として、「求人や人材育成の状況を把握し、人材確保の課題を把握する」「大規模災害時の対応について把握し、行政とのより一層の連携体制構築の課題を把握する」「施設の建て替え及び大規模改修の状況を把握し、課題を把握する」の3点についてお尋ねしています。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

特に指定のない場合は平成30年10月1日現在の状況についてご記入ください

1 グループホームの利用料は、基本料金（部屋代、食費、光熱費、管理費、介護保険一部負担金）と医療費、日用品費等になっています。

また、グループホームは、在宅系サービスと位置づけられているにも関わらず、介護保険制度の在宅サービスの利用はデイサービス（グループホームが10割負担で利用可能）以外は利用できないこと、市の低所得者むけのサービスも紙おむつの支給のみです。

生活保護受給者や、低所得のご利用者も入居され、利用料及び、個人に係わる日用品の負担が厳しい現状があるのではないかと考えます。グループホームにおける利用者の費用負担の現状について記入ください。

(1) 基本利用料金（部屋代、管理費、食費、介護保険一割負担）について該当するところに○をつけてください。

| 金額範囲 | 該当(○) | 金額範囲 | 該当(○) |
|-----------|-------|-----------|-------|
| ①13万～14万円 | | ③15万～16万円 | 7 |
| ②14万～15万円 | | ④16万以上円 | 2 |

(2) その他日用品、医療費等の負担額の分布状況についてご記入願います。(名)

| 金額範囲 | 人数 | 金額範囲 | 人数 |
|---------|-----|-----------|-----|
| ①5千円未満 | 54人 | ③1万～1万5千円 | 22人 |
| ②5千～1万円 | 56人 | ④1万5千以上 | 14人 |

(3) 現在のご利用者の入居年数をご記入ください。

| 入居年数 | 人数 | 入居年数 | 人数 |
|-----------|-----|-----------|-----|
| ①1年未満 | 24人 | ③3年以上6年未満 | 55人 |
| ②1年以上3年未満 | 27人 | ④6年以上 | 46人 |

(4) 現在の生活保護受給者の受け入れ状況

22人

(5) 負担軽減のため利用したい在宅サービス（具体的に）

福祉用具レンタル・デイサービスの利用選択

2 年々身体的ケアの必要なかたが増え「グループホームの重度化」が問題になってきています。2009年には、看取り加算も創設され、グループホームでの看取りが推進されてきています。

グループホームは「様々な認知症状がある認知症の方を、家庭的な場所で、職員の見守りや一部介助により一人ひとりの思いや不安に寄り添い、持っている力を発揮しながら暮らせる場所として支援していくこと」を目的としてスタートしました。重度ケア、終末期のケアのご利用者の比率が高くなり、この本来の目的を果たすことが難しくなっていることが課題になっています。

各グループホームにおける重度化の実態をご記入ください。

(1) 現在のご利用者の要介護度（実数）

| 要介護度 | 人数 | 要介護度 | 人数 |
|------|-----|------|-----|
| 要支援2 | 0人 | 要介護3 | 39人 |
| 要介護1 | 22人 | 要介護4 | 30人 |
| 要介護2 | 34人 | 要介護5 | 27人 |

(2) 看取りの実施状況について

| | |
|-----------------|----|
| 平成28年度 看取り人数 | 2人 |
| 平成29年度 看取り人数 | 3人 |
| 平成30年度 上半期看取り人数 | 1人 |
| 現在の看取り対象者 | 5人 |

(3) 重度化の状況について

⇒各項目に該当するご利用者数について記入してください。

| | |
|-----------------------|-----|
| 食事全介助 | 24人 |
| 移動全介助 | 31人 |
| 排泄全介助 | 44人 |
| 入浴全介助 | 47人 |
| 常時車椅子利用 | 24人 |
| カテーテル・ストマ・在宅酸素等医療器具利用 | 0人 |

(4) ご利用者の活動について

| | |
|---------------|---------|
| ご利用者との買い物について | 17回/週 |
| 料理への参加状況 | 31.4人/日 |

3. 人材確保に関する、介護職員採用状況についてお尋ねします。

(1) 介護職員の採用・離職状況についてご記入願います (H28.4.1~H29.3.31の間)

| | 常勤 | 非常勤 | 計 |
|-------------------|-----|-----|-----|
| 採用者数 | 19人 | 18人 | 37人 |
| (採用者のうち介護系新卒者) | 0人 | | 0人 |
| (採用者のうち介護系以外の新卒者) | 0人 | | 0人 |
| 離職者数 | 9人 | 10人 | 19人 |

(2) 60歳以上の介護職員の人数をご記入ください。

| | 常勤 | 非常勤 | 計 |
|------------------|-----|-----|-----|
| 60歳以上 | 11人 | 31人 | 42人 |
| (上記のうち、定年後の再雇用者) | 1人 | 1人 | 2人 |

(3) 在住外国籍および日本国籍の外国人の雇用についてお尋ねします。

| | 常勤 | 非常勤 | 計 |
|-----------|----|-----|----|
| 在住外国籍の外国人 | 0人 | 0人 | 0人 |
| 日本国籍の外国人 | 0人 | 3人 | 3人 |
| 計 | 0人 | 3人 | 3人 |

上記外国人雇用施設の方にお尋ねします。

| | |
|-------|----------------|
| 良かった点 | 仕事に真面目に取り組む点 |
| 課題 | 難しい日本語が理解出来ない事 |

4. 職員の求人状況と結果 (今年度4月~9月) についてお尋ねします。

(1) 職員の求人状況について該当するものに○を選択してください。

※以下ブルーセルは、セルの▼をクリックして○を選択。間違いはDeleteで消去。

| 今年度4月から9月の間に | 常勤 | 非常勤 | 介護士 | 看護師 | その他 | その他の職種内容 |
|---------------|----|-----|-----|-----|-----|--------------|
| 1. 求人を実施した | 5 | 6 | 6 | 1 | 2 | 運転手・調理員・夜勤専門 |
| 2. 求人を実施していない | 4 | 3 | | | | |

注) 常勤…雇用形態ではなく、法人によって定められた常勤の従事者が勤務すべき時間数に達している職員としてご回答ください。

職員の求人を実施した施設は、求人の結果、該当するものに○を選択してください。

| | 常勤 | 非常勤 | 理由 |
|-----------------|----|-----|---------------------|
| 1.求人を上回っていた | 0 | 0 | |
| 2.ほぼ求人通りの応募があった | 0 | 0 | |
| 3.求人を下回っていた | 5 | 6 | 求人数に満たなかった。応募がなかった。 |
| 4.応募はあったが不採用 | 0 | 0 | |
| 5.その他 | 0 | 0 | |

(2) 人材確保・離職防止に向けた取り組み ※該当する箇所○を選択してください。また、その具体的内容をご記入ください。

| 取り組み | している | したい | 具体的内容 |
|--------------|------|-----|-----------------------------|
| ①資格取得への支援 | 6 | 3 | 受験費用の事業所負担 |
| ②キャリアアップの明示 | 6 | 3 | 人事評価制度、業績に応じた昇給制度 |
| ③給与水準の引き上げを | 4 | 5 | 給与規程の見直し、時給の改定 |
| ④能力開発・研修費の充実 | 3 | 6 | 予算額のアップ |
| ⑤労働環境の改善 | 1 | 8 | 見守り支援機器の導入 |
| ⑥休暇取得の推進 | 6 | 3 | 長期休暇制度の導入・人数が足りていれば有給休暇はとれる |
| ⑦福利厚生の実施 | 3 | 6 | 借り上げ社宅制度の実施 |

(3) 事業所で雇用したい職種とその人数についてご記入ください。

| 職種 | 常勤 | 非常勤（常勤換算） |
|-------------|-----|-----------|
| 1.介護福祉士・介護士 | 20名 | 11名 |
| 2.正看護師・准看護師 | 0名 | 1名 |
| 3.理学・作業療法士 | 0名 | 0名 |
| 4.ケアマネージャー | 0名 | 0名 |
| 5.生活相談員 | 0名 | 0名 |
| 6.管理栄養士 | 0名 | 0名 |
| 7.歯科衛生士 | 0名 | 0名 |
| 8.事務 | 0名 | 0名 |
| 9.調理師 | 0名 | 0名 |

* 上記の職員を雇用することにより期待できると考えるサービスの質の内容についてご記入ください。（記入例：看護師を1名増員することにより看取り介護の導入が可能となる。）

サービスの質の向上

介護職員が安定する事で、BPSDへのアプローチや個別ケアの提供がよりクオリティ高く提供できる。

レクリエーションや外出機会の増加。精神面のケアの充実。

職員の休みが取れ、ストレスが軽減される。その事により、利用者対応にゆとりが出て、マンツーマン対応が可能となる。

外出等の機会を確保出来るようになる。職員の負担軽減。研修へ参加しやすくなる、有給取得の向上。

(4) 貴施設における人材育成の課題と解決策および市への要望についてございましたら具体的にご記入ください。

| | | |
|-----|-------|--|
| 記入例 | 課題 | 喀痰吸引研修受講の費用と時間の確保が困難のため夜間吸引の必要な胃瘻の入所者の受け入れの課題となっている。 |
| | 解決策 | 夜勤を行う介護職員の喀痰吸引研修費用の負担軽減を行い解決する。 |
| | 市への要望 | 相模原市による研修受講費用の助成を継続する。 |

| | |
|-------|---|
| 課題 | 1.内部、外部研修の充実 2.職員歴の浅い職員が多く、教育をする職員が不足している。 |
| 解決策 | 1.スタッフの安定的な雇用にて、内容の充実、キャリアに合わせた研修を組み立てることが出来る。 2.外部の高いスキルを持った方に継続的に職員教育を実施してもらう。 |
| 市への要望 | 1.福祉施設への処遇改善 2.教育関連の補助金を増額してほしい。 |

5. 防災についてお尋ねします。

大規模災害時の連携体制について <事業継続・福祉避難所としての機能充実のために>

(1) 大規模災害発生時に、行政に協力して欲しいこと・協力できることをご記入ください。

避難所に寝たきりの方や体力の低下した方が、負担なく避難できる設備を設置してほしい。

情報の共有・地域の認知症高齢者・介護者への支援・介護人材の派遣

水を含む食料。介護用品。情報提供をしてほしい。

早い段階での情報確保。ライフラインの早期復旧、燃料の優先的配給。

食料の備えが不十分。長引く避難生活になったら、食料の配布を早急に行ってほしい。

(2) 大規模災害発生時に、施設間で協力して欲しいこと・協力できることをご記入ください。

情報の共有・介護人材の派遣・近隣高齢者の避難受入・デイフロアで場所の提供はできる。

情報や必要物資、人員関係を協力し合いたい。

法人内、各施設での救護。避難等連携を図りたい。

(3) 大規模災害発生時に、地域へ協力できること・地域でして欲しいことをご記入ください。

当施設では、高齢化が進んでおり、協力を期待出来る状況ではない。多くはないが、被災者の一時避難先としての受け入れは出来る。近隣の障害の施設と出来る協力はし合うよう話している。

情報提供やわずかだがスペースの提供。

認知症の方の行動を理解してほしい。パニックになった時、近隣へ聞こえるほどの大声が発生する事が考えられる。

近隣に関する細かな情報が重要になると想定されるので、地域や近隣施設との情報共有が密に出来る仕組みの構築が必要。

災害ボランティア会の発足。建物倒壊時などには避難誘導の協力をお願いしたい。

(4) 大規模災害発生時に課題だと感じていることをなんでもご記入ください。

飲料水以外の水の確保。備蓄食料が尽きた場合の補充。
 直近避難所まで距離があり、道中ほとんど土砂災害警戒区域であるため孤立する可能性が高い。
 建物が壊れたら、動きが取れない。避難所までの移動が大変。
 水を含む食料、介護用品や人材確保に課題あり。避難が必要になった時の移動手段と生活の継続性。
 施設全体の耐久性。電話が不通になることによる家族、外部との連携、緊急連絡、安否確認などの確保。

6. 介護福祉施設の耐用年数は40～50年といわれています。東京都では、平成27年度から福祉施設の建て替え期間中に借用できる代替施設を整備する計画があります。相模原市における施設建て替え期間中に借用可能な代替施設の整備についてお尋ねします。

(1) 貴施設の建築年数は 14.1年

(2) 施設建て替え期間中に借用可能な施設があれば利用を

| | | | |
|------|---|-------|---|
| 希望する | 5 | 希望しない | 4 |
|------|---|-------|---|

その理由は 安定した生活継続場所として。代替地も無く、現時点では事業継続困難なため。

(3) 施設の建て替えに関する課題および解決策、市への要望がございましたら具体的にご記入ください。

| | |
|-------|---|
| 課題 | 1.財源の不足 2.建て替え期間中介護給付費等の収入が数か月間に渡ってなくなる事が想定され、その間の職員雇用を確保する対策を講じなければ、建て替えたとしても稼働が出来ない。 |
| 解決策 | 1.介護報酬の抜本的な引き上げ 2.建て替え期間中の職員給与保障を行う。 |
| 市への要望 | 1.まずは町田市との格差是正を希望する。 2.職員給与保障のための助成金の設定。 |

7. 大規模改修についてお尋ねします。

(1) 計画もしくは検討している大規模改修の内容について該当するものに○を選択してください。

| | | | | | | | | |
|----|----|----|----|-----|----|-----|----------|---|
| 防水 | 防水 | 外壁 | 空調 | 給排水 | 給湯 | その他 | その他の内容記入 | 無 |
| 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | | 6 |

(2) 改修内容ごとにかかる費用の予想額は

| | |
|--------|---------------|
| 改修内容 | 予想額 |
| 空調設備交換 | 120万円～1千500万円 |
| 給湯設備交換 | 40万円 |

小規模多機能型居宅介護調査票

| | | | |
|------|-------------|------|--|
| 施設種別 | 小規模多機能型居宅介護 | 施設名 | |
| 記載者名 | (職) | (氏名) | |

【趣旨】

本調査では、事業所全体の概要を調査しつつ、ご利用者の「費用負担」並びに「重度化」の状況や従業員の動機付けやキャリアパス等を把握する事により、今後小規模多機能型居宅介護の在り方検討の一助としていきたいと考えております。
ご協力を宜しくお願い致します。

平成30年10月1日現在の状況について、以下の問いにご記入ください

1. 事業所概要

(1) 該当するものに○を付けてください

| | | | | |
|-----------|-----|---|-----|--|
| 利用者意向の把握 | ①あり | 3 | ②なし | |
| 損害保険加入の有無 | ①あり | 3 | ②なし | |
| 生活保護指定の有無 | ①あり | 3 | ②なし | |
| 苦情対応窓口の有無 | ①あり | 3 | ②なし | |
| ホームページの有無 | ①あり | 3 | ②なし | |

(2) 事業所の特色についてご記入願います

ご利用者の身体状況、生活環境、家族構成等を詳しく把握し、在宅生活が継続できるように支援している。

住み慣れた自宅でこれからも生き活きと暮らし続ける事ができるよう、その人の想いに少しでも寄り添える様に、対応は場当たりのにならない、その日、その時、その状況に合わせた対応を心掛けている。

地域に愛される事業所を目指し、家庭的な雰囲気のもとサービスを提供していきます。

(3) 利用者はどの様な経緯で貴事業所に繋がったか、○を付けてください(複数回答可)

| | | |
|----------------|---|--------------|
| 居宅介護支援事業所からの紹介 | 3 | |
| 高齢者支援センターからの紹介 | 3 | |
| 病院からの紹介 | 3 | |
| 貴事業所のホームページをみて | 1 | |
| 口コミ | 2 | |
| その他 | 1 | (利用者家族からの紹介) |

2. サービス内容

(1) 以下の空欄にご記入ください

| | |
|-------------|----------|
| 登録定員 | 平均 21.3名 |
| 登録者の平均年齢 | 平均 84.7歳 |
| 登録者の人員(男性) | 平均 8.3名 |
| 登録者の人員(女性) | 平均 13名 |
| 通いサービスの利用定員 | 平均 13名 |
| 宿泊サービスの利用定員 | 平均 5名 |

(2) 利用料金について以下の空欄にご記入ください

| | |
|-------|--------|
| 朝食の料金 | 333円 |
| 昼食の料金 | 616円 |
| 夕食の料金 | 466円 |
| おやつ代 | 150円 |
| 宿泊費 | 1,700円 |

(3)各種加算について該当するものに○を付けてください

| | | | | |
|-----------------|-----|---|-----|---|
| 若年性認知症受入加算 | ①あり | 0 | ②なし | 3 |
| 看護職員配置加算 | ①あり | 2 | ②なし | 1 |
| 看取り連携体制加算 | ①あり | 0 | ②なし | 3 |
| 市町村独自加算 | ①あり | 1 | ②なし | 2 |
| 訪問体制強化加算 | ①あり | 1 | ②なし | 2 |
| 総合マネジメント加算 | ①あり | 1 | ②なし | 2 |
| 生活機能向上連携加算 | ①あり | 0 | ②なし | 3 |
| 栄養スクリーニング加算 | ①あり | 0 | ②なし | 3 |
| サービス提供体制加算 | ①あり | 2 | ②なし | 1 |
| 処遇改善加算 I 或いは II | ①あり | 3 | ②なし | 0 |

3.重度化の実態

(1)現在のご利用者の要介護度(実数)

| 要介護度 | 人数 | 要介護度 | 人数 |
|------|-----|------|-----|
| 要支援1 | 2名 | 要支援2 | 6名 |
| 要介護1 | 13名 | 要介護2 | 18名 |
| 要介護3 | 12名 | 要介護4 | 6名 |
| 要介護5 | 7名 | | |

(2)認知症高齢者の日常生活自立度(実数)

| | | | |
|----|-----|----|-----|
| 自立 | 5名 | I | 5名 |
| Ⅱa | 17名 | Ⅱb | 10名 |
| Ⅲa | 16名 | Ⅲb | 5名 |
| Ⅳ | 4名 | M | 2名 |

(3)看取りの実施状況について

| | |
|--------------|----|
| 平成29年度 看取り人数 | 0名 |
| 現在の看取り対象者 | 0名 |

(4)重度化の状況について

→各項目に該当する利用者についてご記入ください

| | |
|---------|-----|
| 食事全介助 | 4名 |
| 移動全介助 | 7名 |
| 排泄全介助 | 7名 |
| 入浴全介助 | 9名 |
| 常時車椅子利用 | 11名 |

4.人材確保に関する、介護職員採用状況について

(1)介護職員の採用、離職状況についてご記入願います(H29.4.1～H30.3.31の間)

| | 常勤 | 非常勤 | 計 |
|-------------------|----|-----|----|
| 採用者数 | 4名 | 5名 | 9名 |
| (採用者のうち介護系新卒者) | 0名 | 0名 | 0名 |
| (採用者のうち介護系以外の新卒者) | 0名 | 0名 | 0名 |
| 離職者 | 0名 | 4名 | 4名 |

(2)60歳以上の介護職員の人数をご記入ください

| | 常勤 | 非常勤 | 計 |
|------------------|----|-----|-----|
| 60歳以上 | 2名 | 9名 | 11名 |
| (上記のうち、定年後の再雇用者) | 0名 | 0名 | 0名 |

(3)在住外国籍及び日本国籍の外国人の雇用についてご記入ください

| | 常勤 | 非常勤 | 計 |
|-----------|----|-----|----|
| 在住外国籍の外国人 | 0名 | 0名 | 0名 |
| 日本国籍の外国人 | 0名 | 1名 | 1名 |
| 計 | 0名 | 1名 | 1名 |

(4) 人材確保・離職防止に向けた取り組み
(該当する箇所に○を選択し、更に具体的内容をご記入ください)

| 取り組み | している | したい | 具体的内容 |
|--------------|------|-----|------------------------------------|
| ①資格取得への支援 | 3 | 0 | 研修の機会の確保・受験料の法人負担・資格取得費用の援助・研修への斡旋 |
| ②キャリアアップの明示 | 1 | 2 | 当事業所規定 |
| ③給与水準の引き上げ | 2 | 1 | 当事業所規定・給与規程の見直し |
| ④能力開発・研修費の充実 | 0 | 3 | キャリアアップ補助金の申請 |
| ⑤労働環境の改善 | 0 | 3 | 達成感の充実 |
| ⑥休暇取得の推進 | 1 | 2 | 介護休暇・育児休暇などの充実・有休取得率の向上(100%) |
| ⑦福利厚生 of 充実 | 1 | 2 | あじさいメイツ |

(5) 事業所で雇用したい職種とその人数についてご記入ください

| 職種 | 常勤 | 非常勤(常勤換算) |
|-------------|----|-----------|
| 1.介護福祉士・介護士 | 9名 | 6名 |
| 2.正看護師・准看護師 | 1名 | 0名 |
| 3.理学・作業療法士 | 0名 | 0名 |
| 4.ケアマネジャー | 3名 | 1名 |
| 5.生活相談員 | 0名 | 0名 |
| 6.管理栄養士 | 0名 | 0名 |
| 7.歯科衛生士 | 0名 | 0名 |
| 8.事務 | 0名 | 1名 |
| 9.調理師 | 0名 | 0名 |

(6) 貴事業所における人材育成の課題と解決策及び市への要望について
具体的にご記入ください

| | | |
|----|-----|--|
| 記入 | 課題 | 1.人員の不足から、外部の研修に職員を派遣する余裕がない。 2.スタッフにおける知識・技術・倫理に於いて研鑽を積むべき所ではあるが、人員等、事業所に於いて出してあげたくても、出せない |
| | 解決策 | 1.事業所で研修がおこなえる環境づくり。 2.研修の充実と拡大案 |
| | 要望 | 1.事業所への講師派遣事業をおこなってほしい。 2.市が精力的に介護人材のスキルアップを図るための研修の企画、並びに研修への補助金の拡大 |

以上で質問は終了となります。 ご協力ありがとうございました

1・ケアマネジャーについて

1) ケアマネジャー人数

南区・中央区・緑区合わせて 24 施設のケアマネジャーの正職員は 85 名。
パート職員は 7 名であり正職員の約 10 パーセントである。
ケアマネジャーの派遣雇用は 0 名で雇用が難しい状況である。

2) ケアマネジャーの特性

性別は女性が 72 名、男性が 22 名であり圧倒的に女性が多く、また、年代別では 40～50 歳代の中堅クラスが多く従事しており、実務年数では 3 年目から徐々に多くなり、最も多いのは 6 年以上のベテランである。
主な資格は介護福祉士が最も多く 78 名であり、次は社会福祉士 24 名、看護師 2 名、栄養士 2 名、歯科衛生士 1 名、初任者研修の資格を持ったケアマネジャーもいる。
正職員 100 名中 33 名が主任ケアマネとして就労している。

3) 営業日について

営業日は 10 施設が月～金として営業し土・日休みとなっている。
その次に 3 施設において月～土の営業で日のみ休み、5 施設が祝土日休み、6 施設が日祝休み、1 施設がシフト休みと多岐にわたっている。
その他として特定事業所加算を取得している 13 施設のうち、加算（Ⅱ）10 施設、加算（Ⅲ）3 施設と加算（Ⅰ）を取得するのは難しいことが伺える。

2・利用者状況について

1) 新規・利用者件数

H29 年 4 月～9 月の半年間で新規依頼件数は介護 434 名、要支援 96 名、事業対象者 0 名であった。9 月末のケアプラン総件数は介護で 2975 名であり、ケアマネ一人当たりの担当件数が平均約 30 件であった。

2) 依頼元

新規依頼の多くは直近の高齢者支援センターからであるが、最近では自己検索による個人からの直接居宅事業所に依頼される件数も増えている。

3) 年齢・性別・介護度・ケアプラン内容

利用者の年齢は 70～80 歳代のケアプランが一番多く、性別は、女性 3：男性 2 との比率になっている。又 100 歳代の利用者も 12 名いる。
居宅事業所の介護度としては介護 1・2 がもっとも多い状況である。

ケアプラン内容として圧倒的に多いのは認知症であり、生活状況としては独居である。

1)・2)・3) から考査すると介護度 1・2 の認知症・独居のケアプランが多く介護 3 以上は在宅で生活されている利用者が少なくなっている現状が伺える。

3・加算について

1) 特定事業所加算

24 施設中、特定事業所加算は、13 施設が取得しておりそのうち加算Ⅱが 10 施設、加算Ⅰが 3 施設取得している。加算Ⅰに関しては取得している施設は無かった。取得していない背景には「利用者総数のうち、介護 3・介護 4・介護 5 である者の占める割合が 40/100 以上であること」という条件がある為、介護 1・2 の利用者が多い施設は取得ができてない。

2) 特定事業所集中減算

24 施設中、該当する事業所は要件が変わったこともあり、1 件で該当内容は特定施設入居者生活介護となっている。

4・人材確保について

1) 採用状況について

H29 年度の全施設の採用状況は常勤・非常勤含め 15 名が採用されており、又、離職者数は 9 名であった。結果として、ケアマネ総数には大きく変わりはない状況である。

2) 60 歳以上の職員の人数

全ケアマネのうち、60 歳以上の方が 15 名就労しており、定年後の再雇用となったのは 9 名と再雇用率が多い数字となっている

3) 在住外国籍および日本国籍

昨年と続いて該当者なし。

5・職員の求人状況について

1) 22 施設での求人を実施した事業所は 6 施設であり、常勤 5 名、非常勤 1 名の採用状況である。求人の結果、ほぼ求人通りの応募があった 3 事業所、求人を下回っていた 1 事業所、応募はあったが不採用 1 事業所となった。

2) 人材確保・離職防止に向けた取り組みについて

① 資格取得への支援

- ・主任ケアマネジャー取得費用の補助制度
- ・外部研修への参加（研修費は施設負担） 参加日は出勤扱い。
- ・市のキャリアアップ補助金の活用。
- ・資格修得費の補助（半額負担）

- ・特別有給休暇
 - ・主任ケアマネジャーの研修を進めている。
 - ・就業時間内での研修参加可能。
- ② キャリアアップの明示
- ・人事考課制度の導入。
 - ・年1回回覧明示
 - ・個人的な研修や業務上の研修の機会を積極的に推進している。
 - ・面談し提示している。
 - ・キャリアパスの明確化。
- ③ 給料水準の引き上げ
- ・定期昇給は年1回実施している。
 - ・4月に人事考査のもとに実施。
 - ・調整手当として毎月定額を支給。
 - ・給与規定の改定
- ④ 能力開発・研修費の充実
- ・各自必要研修に参加
 - ・研修費・交通費は全額法人負担。
 - ・キャリアに応じての外部研修に参加。
 - ・研修への参加の促し。
- ⑤ 労働環境の改善
- ・残業時間の短縮を意識するように努める。時間内での業務完遂を目指す。
 - ・パソコンの増設。
 - ・毎日の清掃
 - ・適正な人数の利用者を受けるとして過度な労働はさせない。
 - ・場所の制限があるため、難しい部分がある。
- ⑥ 休暇の取得
- ・有給消化は推進。
 - ・年1回の連続休暇（9連休）取得を推進。
 - ・月1回の有給休暇を取れるようにしている。
 - ・有給消化が少ない人には取得を促す。
 - ・職員の公休日には電話連絡は施設職員が対応している。
 - ・来年度の法改正に対する就業規定に改定予定。
- ⑦ 福利厚生の実施
- ・労働環境・休暇取得を推進していく。
 - ・福利厚生費として職員懇親会に年額50万円支給。

- ・インフルエンザ予防接種の代金補助。
- ・退職金制度加入。
- ・忘年会費用一部助成。
- ・メンタルヘルスチェックの実施
- ・職員交流会の実施

6・防災について

1) 大規模災害時の連携体制について

- ① 大規模災害発生時の行政に対しての要望は、食料品・医薬品を含む物品の提供と被災情報の提供が意見として多く、補助金を出して欲しいなども取り上げられた。施設側として協力できる事は、福祉避難所としての被災者を受け入れる支援活動や一時的に個人情報保護法の適用を停止して欲しい。
- ② 大規模災害発生時に施設間で協力してほしい事は、各地区で話し合い、受け入れ人数、連絡方法、ストック種類と数の把握など協力できることは施設近隣のサービス利用者の安否確認等の情報交換や施設内に井戸を設置したので「水」の協力は可能などもあった。
- ③ 大規模災害発生時に地域へ協力できる事は、施設近隣のサービス利用者の安否確認等の情報交換。マンパワーの提供。地域でしてほしいことは、町内会単位での安否確認の情報が欲しい。
- ④ 大規模災害発生時の課題は、避難準備情報や避難勧告が出ても、最終的に避難行動に出るかは当事者本人に任されている。利用者を受入れると言っても実際にシュミレーションを繰り返して行かないと受け入れが出来ないのであるという課題と不安がある。

居宅介護支援事業調査票(総集計)

| | | | |
|-------------|----------|------------|-------|
| 施設種別 | 居宅介護支援事業 | 施設名 | 24事業所 |
| 記載者名 | (職) | (氏名) | |

本調査では、市内居宅介護支援事業所の利用と需要の実態を把握し、今後の居宅事業所のあり方について考える基礎データを得るために「現利用者状況」「ケアマネジャー」「事業所」の実態についてお尋ねしています。
皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

ケアマネジャー人数

| | | |
|-----|-----|----|
| 正職員 | パート | 派遣 |
| 85名 | 7名 | 0名 |

1. 利用者状況について

利用者件数(実績) ※平成30年4～9月

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 介護 | 2534名 | 2579名 | 2575名 | 2576名 | 2566名 | 2523名 |
| 支援 | 447名 | 445名 | 442名 | 444名 | 450名 | 442名 |
| 事業対象者 | 11名 | 11名 | 11名 | 11名 | 10名 | 10名 |

新規契約 ※平成30年4～9月

| | | | | | | |
|------|----|------|----|-----|-------|----|
| 新規契約 | 介護 | 434名 | 支援 | 96名 | 事業対象者 | 0名 |
|------|----|------|----|-----|-------|----|

新規依頼元 ※平成30年4～9月末

| 直近包括 | 他 包括 | 病 院 | 他 居宅 | 知人紹介 | 自己検索 | その他 |
|------|------|-----|------|------|------|-----|
| 236名 | 102名 | 35名 | 29名 | 14名 | 30名 | 29名 |

利用者の性別・年齢別 ※平成30年9月末、現在

| | 50歳代 | 60歳代 | 70歳代 | 80歳代 | 90歳代 | 100歳代 |
|----|------|------|------|------|------|-------|
| 男性 | 31名 | 101名 | 338名 | 509名 | 134名 | 4名 |
| 女性 | 19名 | 80名 | 389名 | 888名 | 386名 | 8名 |

利用者の介護度・負担割合 ※平成30年9月末

| | 事業 | 支援1 | 支援2 | 介護1 | 介護2 | 介護3 | 介護4 | 介護5 |
|----|----|------|------|------|------|------|------|------|
| 1割 | 6名 | 102名 | 295名 | 585名 | 840名 | 479名 | 464名 | 134名 |
| 2割 | 3名 | 14名 | 10名 | 47名 | 84名 | 55名 | 29名 | 9名 |

介護保険負担限度額認定 ※平成30年9月末

| 第一段階 | 第二段階 | 第三段階 | 第四段階 |
|------|------|------|-------|
| 71名 | 61名 | 90名 | 1047名 |

ケアプランの内容 ※平成30年9月末 重複可

| 独居 | 看取り | 認知症 | 生活保護 | 成年後見人 | その他 |
|------|-----|------|------|-------|------|
| 318名 | 22名 | 963名 | 107名 | 19名 | 127名 |

※その他に回答された方は、内容を下記にご記入下さい。

精神科・がん・神経難病・脳血管性・泌尿器・整形外科系・特定疾患・自立支援・家族の支援・生活支援・あんしんセンター

2. ケアマネージャーについて

年齢、性別

| | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代以上 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 男性 | 0名 | 5名 | 9名 | 7名 | 1名 | 0名 |
| 女性 | 0名 | 5名 | 20名 | 30名 | 16名 | 1名 |

実務年数

| 1年未満 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年以上 |
|------|----|----|----|-----|-----|------|
| 4名 | 4名 | 4名 | 7名 | 11名 | 11名 | 56名 |

資格の有無 重複可

| | | | | | |
|--------|-----|--------------------------------|-----|-----|----|
| 介護福祉士 | 78名 | 社会福祉士 | 24名 | 看護師 | 2名 |
| 主任ケアマネ | 33名 | 初任者研修(3)・精神保健(1)・栄養士(2) 歯科衛生士1 | | | 7名 |

3. 事業所について

営業日・休業日

土日休み(10)、祝土日休み(5)、日休み(3)、日祝休み(6)、シフト休み(1)

例)月～金・祝日営業、土日休み

雇用経緯

| | |
|------|-----|
| 内部異動 | 38名 |
| 外部等 | 44名 |

認定調査実施件数

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|------|------|------|------|------|------|
| 250件 | 401件 | 291件 | 234件 | 218件 | 182件 |

※以下ブルーセルは、セルの▼をクリックして○を選択。間違いはDeleteで消去。

取得加算に○。無に場合は空欄。 ※平成29年4～9月



| 初回 | 入院時 連携 | 退院退所 | 小規模多 機能連携 | 中山間 地域等提 供 | 看護小多 連携 | 緊急カン ファレンス |
|----|-----------|------|--------------|------------------|------------|---------------|
| 23 | 17 | 10 | 2 | 1 | 0 | 1 |
| | | | | | 0 | 0 |

取得特定事業所加算に○。無の場合は空欄。

| 特定事業所加算(Ⅰ) | 特定事業所加算(Ⅱ) | 特定事業所加算(Ⅲ) |
|------------|------------|------------|
| 0 | 10 | 3 |
| 0 | | |

特定事業所集中減算の報告の有無該当に○

| | | | |
|----|---|----|----|
| あり | 1 | なし | 22 |
|----|---|----|----|

※「あり」のみ。特定事業所集中減算に該当したサービスを下記にご記入ください。

| |
|----------------|
| 特定施設入居者生活介護(1) |
|----------------|

| ※平成29年9月現在 | | ※平成29年4～9月 | | |
|------------|----------------|----------------|------|------|
| 紙おむつ支給 | 高齢者等 移送サービス | 緊急一時 サービス利用 | 住宅改修 | 苦情件数 |
| 82件 | 104件 | 50件 | 123件 | 7件 |

4. 人材確保に関する、職員採用状況についてお尋ねします。

(1) 介護職員の採用・離職状況についてご記入願います (H29.4.1～H30.3.31の間)

| | 常勤 | 非常勤 | 計 |
|-------------------|-----|-----|-----|
| 採用者数 | 13人 | 2人 | 15人 |
| (採用者のうち専門系新卒者) | 1人 | | 1人 |
| (採用者のうち専門系以外の新卒者) | | | 0人 |
| 離職者数 | 7人 | 2人 | 9人 |

(2) 60歳以上の職員の人数をご記入ください。

| | 常勤 | 非常勤 | 計 |
|------------------|-----|-----|-----|
| 60歳以上 | 11人 | 4人 | 15人 |
| (上記のうち、定年後の再雇用者) | 6人 | 3人 | 9人 |

(3) 在住外国籍および日本国籍の外国人の雇用についてお尋ねします。

| | 常勤 | 非常勤 | 計 |
|-----------|----|-----|----|
| 在住外国籍の外国人 | | | 0人 |
| 日本国籍の外国人 | | | 0人 |
| 計 | 0人 | 0人 | 0人 |

上記外国人雇用施設の方にお尋ねします。

| | |
|-------|--|
| 良かった点 | |
| 課題 | |

5. 職員の求人状況についてお尋ねします。

(1) 職員の求人状況について該当するものに○をつけてください。

今年度4月から9月の間に

| | 常勤 | 非常勤 |
|--------------|----|-----|
| 1.求人を実施した | 5 | 1 |
| 2.求人を実施していない | 17 | 17 |

注) 常勤…雇用形態ではなく、法人によって定められた常勤の従事者が勤務すべき時間数に達している職員としてご回答ください。

(2) 職員の求人を実施した施設は、求人の結果、該当するものに○をつけてください。

| | 常勤 | 非常勤 | 理由 |
|-----------------|----|-----|---------|
| 1.求人を上回っていた | 0 | 0 | |
| 2.ほぼ求人通りの応募があった | 3 | 0 | |
| 3.求人を下回っていた | 1 | 0 | 問い合わせなし |
| 4.応募はあったが不採用 | 1 | 0 | |
| 5.その他 | 0 | 0 | |

(3) 人材確保・離職防止に向けた取り組みについて、該当する箇所すべてに○をご記入ください。また、その具体的内容をご記入ください。

| 取り組み | している | したい | 具体的内容 |
|--------------|------|-----|-------|
| ①資格取得への支援 | 16 | 3 | ※別紙 |
| ②キャリアアップの明示 | 7 | 6 | ※別紙 |
| ③給与水準の引き上げを | 8 | 6 | ※別紙 |
| ④能力開発・研修費の充実 | 7 | 7 | ※別紙 |
| ⑤労働環境の改善 | 6 | 6 | ※別紙 |
| ⑥休暇取得の推進 | 10 | 4 | ※別紙 |
| ⑦福利厚生の充実 | 6 | 6 | ※別紙 |

(4) 事業所で雇用したい職種とその人数についてご記入ください。

| 職種 | 常勤 | 非常勤（常勤換算） |
|------------|----|-----------|
| 1.主任ケアマネ | 3名 | 名 |
| 2.ケアマネージャー | 1名 | 名 |
| 3.事務 | 0名 | 名 |

(5) 上記の職員を雇用することにより期待できると考えるサービスの質の内容についてご記入ください。

| |
|---|
| ①H33年4月から居宅事業所の管理者は主任ケアマネの資格保有が条件の1つになるため、主任ケアマネを雇用することで、経営の継続を図る。②ケアマネを増やしたいが事務室が狭く増員出来ない。③管理者育成、世代交代の準備④特定事業所加算を取り、困難事例の対応、勉強会た事例検討の開催によりケアマネジメントの質の向上を図れる。⑤事業所加算をアップすることが出来る。ベテランケアマネが入ることで事業所の困難ケースなどへの対応がスムーズに行える。 |
|---|

(6) 貴施設における人材育成の課題と解決策および市への要望についてございましたら具体的にご記入ください。

| | |
|-------|-----|
| 課題 | ※別紙 |
| 解決策 | ※別紙 |
| 市への要望 | ※別紙 |

6. 防災についてお尋ねします。

大規模災害時の連携体制について <事業継続・福祉避難所としての機能充実のために>

- (1) 大規模災害発生時に、行政に協力して欲しいこと・協力できることをご記入ください。

※別紙

- (2) 大規模災害発生時に、施設間で協力して欲しいこと・協力できることをご記入ください。

※別紙

- (3) 大規模災害発生時に、地域へ協力できること・地域でして欲しいことをご記入ください。

※別紙

- (4) 大規模災害発生時に課題だと感じていることをなんでもご記入ください。

※別紙

7. その他、調査票について追加項目等のご意見がありましたら、ご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

(一社) 相模原市高齢者福祉施設協議会

平成 30 年度 調査研究部会 委員等

●調査研究部会委員

| 所属部会 | 氏名(敬称略) | 備考 | 施設名 |
|--------------------|---------|------|-----------------------------|
| 特養 | 大原 伸介 | 委員長 | モモ 042-767-8030 |
| | 小檜山 裕子 | 副委員長 | こもれび 042-757-7330 |
| | 小檜山 仁 | | 銀の館 042-687-6551 |
| | 鎌田 慎司 | | コスモスホーム 042-768-1801 |
| | 龍野 太祐 | | 相模原すみれ園 042-851-6217 |
| | 有泉 一興 | | 清菊園 042-711-6166 |
| デイ(単独・併設) | 谷川 奈緒美 | 副委員長 | おやどり 042-762-5555 |
| | 宮川 功樹 | | みだけ 042-700-0277 |
| 養護・ケアハウス | 岩崎 泉 | | はあとびあ 042-786-8320 |
| | 佐藤 和夫 | 副委員長 | コスモスハウス 042-768-1801 |
| グループホーム・ 小規模多機能 | 吉本 沙織 | 副委員長 | 松ヶ枝 042-749-3733 |
| | 吉田 雪絵 | | グループホーム相模原 042-776-5506 |
| 居宅 | 諸林 賢 | 副委員長 | モモ 042-767-8278 |
| | 加藤 千帆 | | リバーサイド田名ホーム 042-778-0154 |

●部会担当理事

| 担当部会 | 氏名(敬称略) | 備考 | 施設名 |
|----------|---------|----|----------------------------|
| 調査研究 | 大塚 小百合 | | ケアプラザさがみはら 042-713-3818 |
| 特養 | 石若 勇 | | 塩田ホーム 042-778-4090 |
| 単独・併設デイ | 坂本 陽二郎 | | 芙蓉の園 042-744-1860 |
| 養護・ケアハウス | 松坂 健志 | | みだけ 042-700-0277 |
| グループホーム | 金子 智代美 | | シルバータウン相模原 042-755-0301 |
| 居宅 | 常盤 拓司 | | 相陽台ホーム 042-777-3501 |

●事務局

TEL : 042-707-1136 ・ FAX : 042-707-1217 「sagamihara-kourei-kyo@peace.ocn.ne.jp」



一般社団法人

相模原市高齢者福祉施設協議会

〒 252-0236

相模原市中央区富士見 6-1-20 あじさい会館内

TEL : 042-707-1136 FAX : 042-707-1217

Mail : sagamihara-koureikyo@peace.ocn.ne.jp